

第61集

研究紀要

三好教育研究所

令和2（2020）年度

ご あ い さ つ

年度末を迎え、1年のまとめをする大事な時期となりました。日頃は、三好教育会の振興のためにご支援ご協力いただき、深く感謝申し上げます。

三好教育会と三好教育研究所は、平成29年度より「変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く日本人の育成」を研究主題として、研修を進めてまいりました。来年度には、児童生徒一人に1台のタブレットが支給され、GIGAスクール事業が始まります。今後、電子黒板やデジタル教科書等のICT機器を使った授業や県内共有の校務支援システムを使った校内事務等、私たち教員の環境は大きく変化していきます。このような状況の中、私たち教員が率先して新しい知識を吸収し、前向きに研修に取り組むことが大切になってきます。しかし、一方で子どもたちに豊かな感性と何に対しても意欲的に取り組む姿勢を身につけるため、今まで計画的に行ってきた体験活動や身近な自然とのふれあい、地域との交流等についても、今後大切に残していかなければいけない教育活動であると感じています。

本年度は、8月20日の「三好教育研究発表会」において、吾橋小学校と三好教育研究所に、これまでの研究の成果をご発表いただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、残念ながら中止とさせていただきます。

- ① 豊かな体験活動から学びを拓き、深める吾橋教育
～へき地・複式・小規模校の特性を生かして～

吾橋小学校 教頭 井上清隆

- ② 表現リズム遊び・表現運動の指導の現状
－調査から分かったこと、研修会で学んだこと－

三好教育研究所 研究員 中瀧由紀

詳しい内容については、このCDの中に集録していますのでご覧ください。発表にあたって万全の準備をしていただいた吾橋小学校と三好教育研究所の先生方には、心よりお詫びを申し上げますとともに、これまでのご労苦に対しまして心から敬意と感謝を申し上げます。

また、発表後に予定していました臨床心理士の中村経子氏による「思春期の子どもへのかかわり方」と題した講演も中止とさせていただきます。全国的に活躍されている中村氏の講演を楽しみにされていた先生方も多かったと思われまます。重ねてお詫び申し上げます。

なお、この研究紀要は、各学校に1部ずつCD化して配布させていただくとともに三好教育研究所のホームページにも掲載していますのでご活用ください。

終わりにになりましたが、本研究紀要の発行にあたりまして、たくさんのご指導ご助言をいただいた先生方、研究協力校（園）並びに委嘱研究員の先生方、そして、関係各位に心よりお礼を申し上げますとともに、会員の先生方の今後ますますのご活躍を祈念して、ごあいさつとさせていただきます。

令和3年3月

三好教育会 会長 青山 貴幸

目 次

あいさつ

三好教育会 会長 青山 貴幸

—— 研究指定校研究 ——

- 豊かな体験活動から学びを拓き，深める吾橋教育 1
～へき地・複式・小規模校の特性を生かして～

吾橋小学校 教頭 井上 清隆

- 表現リズム遊び・表現運動の指導の現状 12
－調査から分かったこと，研修会で学んだこと－

三好教育研究所 研究員 中瀧 由紀

—— 教育研究所研究員研究 ——

- 小学校の授業で活用できるプログラミング教育教材 25

三好教育研究所 研究員 橋本 早弥香

- 既刊「研究紀要」の内容一覧（平成元年～） 36

研究主題

豊かな体験活動から学びを拓き、深める吾橋教育 ～へき地・複式・小規模校の特性を生かして～

吾橋小学校 教頭 井上 清隆

1 はじめに（本校の概要）

本校のある吾橋地区は、西祖谷山村の南に位置し、清流吉野川や鶏足山を望む、風光明媚な地にある。また寒季の晴れの日に現れる、校区から望む雲海は幻想的である。

校区においては過疎化・高齢化が進行しており、学校のさまざまな活動を支えてくださっているPTA会員（後述）も減少の一途をたどっている。併設されていた幼稚園も新たな入園生がなく、令和元年度をもって休園となった。

保護者は学校の活動に協力的で、休日平日に関わらず、ほとんどの行事等に参加してくれている。地域の老人会や婦人会との関わりも深く、運動会や学習発表会だけでなく七夕集会や愛校作業にも参加し、児童との関わりも多く持ってくれている。

平成27年度からは、西祖谷中、櫟生小との「小中一貫教育（徳島モデル）推進事業＝チェーンスクール」の指定を徳島県から受け、3校で連携しての行事や研修にも数多く取り組んでいる。



本校から望む古宮嶽と鶏足山



校舎全景



4月の「お花見給食」

2 研究のねらい

(1) 児童の実態と課題

令和2年度は、3年生を除く各学年に1名ずつ、5名の児童が在籍している。家族的なつながりの中で、毎日の活動を協力して行っている。給食はランチルームで全校児童、教職員がともにとっており、体育や音楽などの授業も全校で行っている。バスや自家用車で送り迎えで通学している児童が多く、登下校で歩くことも少ないため、体力・運動面は本校の課題の一つである。また、同級生との切磋琢磨の中で磨かれる向上心や一般的な学習規律の習得、友だちと協働して学習を深めたり、他者を意識して説明や発表したりする機会も少ない。

(2) 研究テーマ

昨年度から「豊かな体験活動から学びを拓き、深める吾橋教育～へき地・複式・小規模校の特性を生かして～」のテーマを設定し、本校の課題解決にむけた研究を行ってきた。本校では伝統的に体験的な活動が多く行われてきており、従来からの取り組みを活かしつつ、改めてその見直しや価値づけ・意味づけを行うことにした。多様な学習形態を通して、児童の表現力やコミュニケーション力を一層高めるとともに、地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ学習をより広げ深めることで、児童の「学びに向かう力」のさらなる育成を図っていきたい。



三世代交流グラウンドゴルフ大会

①「豊かな体験活動」とは

近年の子どもの遊びや子ども同士の関わりは、インターネットが生活の中に入り込むことによって、大きく様変わりしている。子どもたちは最早、友だちの家に出かけることさえなく、会話やコミュニケーションが成立する世界に生きている。また豊かな自然に囲まれていながら、それらに触れる機会も少なくなっている。例えば休み時間だと、集団での遊び経験自体が少ない子どもたちにとっては、「何をして遊べばいいのかわからない」状況になっていることも多い。この年代の子どもにとっての「遊び」は、体力を高めるとともに、知的な発達を促進したり、協調性や公正・公平といった社会性の成長を促したり、その副次的な効果は計り知れない。現在の子どもたちが失いつつあるこうした学びの機会を、学校において見取り、意図的・計画的に補っていくが必要になっている。さらに、地域の「ひと・もの・こと」に関わるさまざまな活動を通して、児童が地域や社会への興味関心を高め、地域の課題を自分ごととして意識するとともに、課題解決への意欲や技能を高めていくことが求められている。

②「学びを拓き、深める」とは

加速度的に情報化・IT化、ボーダーレス化が進む現代社会においては、従来のような常識や既存の組織・手法では十分に適応できなくなりつつある。目の前の課題に対して、能動的に課題解決を図る意欲と能力の育成が、これからの社会を生きる児童にとって重要である。

上述の「豊かな体験活動」を通して、児童の学習意欲や探究心を喚起するとともに、さまざまな人たちとの協働、IT機器の活用などを促し、学びをより広げ深めていくことに繋げたい。さらには発表の機会を多く設定し、目的や相手に応じて、考えをまとめて発言したり、より適切な方法や表現で伝えたりする力も育てていきたいと考える。これらは「主体的・対話的で深い学び」にも深く関わる重要な学びであると言える。

③「へき地・複式・小規模校の特性」とは

へき地、小規模校は豊かな自然に恵まれ、少人数ならではの環境で親密な人間関係が育まれている。またその機動性を活かして、一人一人の児童の発達段階や興味関心などに応じた学びを構築していきやすい。こうした「へき地・複式・小規模校」ならではの特性を前向きに捉えて、主体的・創造的な学びに繋がるカリキュラムをマネジメントしていくことは重要である。また「ふるさと」から学び、そのよさを発信し、未来を考える…といった学習は、へき地校がその本領を発揮できる学習と言える。以前であれば、へき地ならではの課題とされていた人口減、高齢化・過疎化といった問題やそれに伴う社会的・経済的な課題は、日本全体で考えるべき喫緊の課題となっている。従来（の経済成長主義、都市中心）とは異なる価値観にもとづく「豊かさ」や「やりがい」を、地方から発信することのできる力がこれからますます求められるだろう。これは、「未来を切り拓いていく人財」、「新たな価値観を創造していく人財」、「地域を輝かせる人財」の育成にもつながる重要な力であると言える。

3 研究の実際

(1) チェーンスクールでの活動

西祖谷地区では平成27年度より、チェーンスクール事業の指定を受け、「子どもの数が減少し

小規模化する学校」の「教育の質を保障する」という課題の下、西祖谷中学校、櫟生小学校との合同で研究、実践を行ってきた。一連の学習活動を通して、小中学生同士の親交が深まるとともに、小学生にとっては中学校の学校生活を垣間見たり、一部体験したりすることで、中学生活への期待や意欲が一層高まっているようである。

①新体力テスト合同記録会、ふれあい運動会

三校合同で新体力テストの合同の記録会を行い、また運動会も同じ時期に行っている（令和2年度から中止）。記録会を合同で行うことにより、同じくらの学年同士で競い合い、刺激し合うとともに、多くの声援を受けて、普段以上に楽しそうに、また最後まで一生懸命に記録に挑戦しようとする姿が見られた。学校単独で行ったときよりも、50m走やボール投げなどでは記録の向上が見られた。



ふれあい運動会は小中合同の運動会で、中学生が中心となって運営や進行を担ってくれた。自校では経験できない規模で行う演技や記録会は、児童にとっては新鮮であり、また広々とした運動場で精一杯体を動かすことができ、体を動かすことの楽しさを改めて実感する機会となった。



合同記録会



地区婦人会による非常食炊き出し



三校合同防災訓練

②合同防災訓練

西祖谷地区は地滑りによる山崩れの多い地域であり、本校校区の多くも地滑り地域にある。こうした危険性を認識し、万が一のときに適切な行動がとれることは、西祖谷地区共通の課題の一つである。昨年6月に行った西祖谷中学校での防災訓練では、初めに「小中学生が縦割りグループに分かれて活動しているときに地震が発生した」という想定で避難訓練を行った後、三好市社会福祉協議会の方によるAED研修や、地域の防災組織による非常食を使った炊き出しなどを行った。避難訓練では自校とは異なる状況の中、小学生たちはやや緊張の面持ちであったが、中学生の先導により落ち着いて避難を行うことができた。また他の団体・組織との合同訓練は、通常とは異なる状況の中で適度な緊張感を持つとともに、地域との連携の重要性を改めて実感する機会となった。今後とも、「自分の命は自分で守る」ことのできるよう、スキルの更新、意識や実践力の向上を図っていきたい。

③チェーンスクールでの合同学習

学年一人での学習は、ひとつの課題に対してじっくりと取り組むことができるなどの利点はあるが、他者と協働する学習の機会は極端に少ない。同級生と同じ課題に取り組むことで、多様な考え

にふれるとともに、自らの考えをわかりやすく説明したり、互いに答えを導いていったりする学習の機会、本校児童にとっては楽しくまた貴重である。

小中3校での合同授業では、西祖谷中学校に各小学校の高学年児童と中学生が一堂に会し、中学校の先生が授業案を作成し、T1を担当する授業を行っている。小学生にとっては、中学校で学習できることで、中学生活の様子を垣間見ることができるとともに、中学生との親交が深まるなど、有意義な時間になっている。



④英語でおもてなし

西祖谷地区をはじめとする西阿波地区は、その観光資源の豊かさから、国内外を問わず多くの観光客でにぎわいを見せている。そうした西祖谷を訪れる外国人観光客を対象に、中学生と小学校高学年児童が自己紹介やホテルの案内、観光地でのクイズなどを行う「英語でおもてなし」を行っている。この活動を通して、自分たちが気づけなかった西祖谷の魅力を再発見し、ふるさとを愛する気持ちが芽生えるとともに、「どのようにすれば自分たちが意図したことをうまく伝えられるか」を考え、表現の仕方や相手に伝わる言い方を工夫するなどの他者意識が育っていった。また事前指導として、西祖谷中学校の英語担当の先生から自己紹介やあいさつの仕方、また基本的な会話等について教わることができ、本番でも自信を持って外国人観光客に接することができていた。一連の活動を通して、より積極的に活動しようとする意欲が高まり、自信をもって発表や会話ができるようになり、英語のスキルだけではない効果が多く見られた。



⑤スカイプ会議

榎生小とは毎月数回、オンライン通話システムの「スカイプ」を使って、「朝の会」を行っている。会の内容は通常の朝の会と特に大きく変わるところはないが、作文、1分間スピーチなどの発表の機会をできるだけ多く取り入れている。また国語科などの発表も、スカイプ会議を利用して行うことが多い。より大勢の児童に聞いてもらうことは、児童にとっての動機づけになり、発表の時間が待ち遠しい様子である。



スカイプ会議低学年

オンラインでの適度な緊張感からか、対象者を注視してより注意して聞こうとする態度や、友だちの発表のよさを発見したり、自分の考えなどと比べたりしながら聞く意識や態度が育っている。声の大きさや姿勢など発表時の態度については課題もあるが、発表時の聞き方話し方などを指導す

るよい機会になっている。

⑥ホワイトボードミーティング

ホワイトボードミーティングは、参加者の意見を進行役がホワイトボードに書き込み、「発散→収束→活用」というプロセスを経て、結論や行動計画を導いていこうとする思考法の一つである。

チェーンスクールの教職員の合同研修会では、開発者であるちよんせいこ先生を平成30年度にお招きしたのに続き、令和元年度は、穴吹中学校の濱田雅子校長先生を講師に迎え、ホワイトボードミーティングの実際について研修を行った。参加者数名でグループを作り、進行役と参加者に分かれて、いくつかの課題を設定し、ホワイトボードミーティングを行った。

本校における活用はまだ途上であるが、ホワイトボードを常に手元に置いており、思考を進める際の手助けになっている。



修学旅行の事前学習もスカイプ



ホワイトボードミーティング教職員研修

(2) 地域との関わり

本校ではもともと児童数＝PTA戸数が少ないが、地域全体で子どもを見守り、育てていこうとする意識が伝統的に高い。町内会ごとに地区委員さんが担当の各戸を回って、PTA会費と運動会の協賛金を集めてくださるなど、手厚い支援をいただいている。また「PTA総会」「七夕集会」「運動会」「学習発表会」には校区内全てのお宅に案内を出している。

校区訪問（後述）では、どのお宅でも子どもを歓迎してくださり、私たち教職員にも、「学校へも行きたいけど、体が…、行く方法（交通の便）が…」という話をしてくださるなど学校への熱い思いを感じることができる。



①体験活動

○茶つみ

吾橋地区は霧（雲海）の発生が多く、水はけのよい傾斜地であることから、お茶の栽培がさかんに行われている。毎年5月初旬には、校区のOさんのお宅で茶つみ体験をさせていただいている。本校の全校児童に加えて、西祖谷中の1年生、櫛生小の高学年児童も交えての活動となっている。手摘み体験を通して、栽培

や収穫の苦労を実体験するとともに、校区の特徴＝地理的特性や産業についても、体感的に学ぶことができる。また近隣のTさんのお宅では、栗拾いを毎年体験させていただいている。

令和元年11月には、三好市「観光戦略課」の殿谷梓さんに、「わたしたちが暮らしているところはすごいところ?!」という題で小学生とその保護者、地域の方に講演をいただいた。子どもたちが普段何気なく目にする茶畑の風景も、気象やさまざまな地理的条件が「奇跡的に」重なったことで生み出されているということを知ることができ、学習の広がりや深まりが進んだ。



校区の方々へのインタビュー



吾橋の名人を発表

②地域学習

本校の「総合的な学習の時間」は、地域学習「大好き『ふるさと吾橋』」を中心に行っている。令和元年度は「吾橋の名人」を、2年度は地域に残る伝説や妖怪などをテーマに学習を行った。一人一人の興味や関心に応じて課題を設定したり、学習の進め方を工夫したりしながら、進んで学習に取り組んでいる。家族や地域の方に取材したことやさまざまな資料で調べたことを関連づけたり、分かりやすく発表したりする学習を通して、地域の特徴やその価値に気づき、ふるさとを大切に思う気持ちが育っている。

○「吾橋の名人大特集」

私たちの身の回りには、さまざまな「名人技」を持った人がいる。しかしそれらは身近であると、かえってその素晴らしさや価値に気づきにくい。児童は、家族や近所の方、読み聞かせのボランティアの方などの様子を思い浮かべたり、家族への聞きとりを行ったりして身近な「名人」について調べ学習を行った。身近な人たちの長所や特技、地域に受け継がれてきたすばらしい伝統や技に気づくとともに、多くの方々が様々な形で吾橋小に関わり、応援してくださっていることを実感できたようであった。

○「三好市の妖怪伝説」

西阿波は、古来秘境の地として知られ、祖谷地方には平家の落人伝説も数多く残っている。近年では数多くの「妖怪」の伝説が残る地として全国的な知名度も上がっている。まず三好市の妖怪伝説について地元のパンフレットやインターネットなどで調べた。さらに地域の方への取材を通して、今も残る「妖怪伝説」が往事の生活と密接に結びつ

ていること、人々の生活の知恵として、「妖怪伝説」が生み出されたことを学ぶことができた。また「祖谷の粉挽き節」にも歌われる「祖谷の源内さん」の話を、プログラミングでアニメーションにしたり、自分たちで現代の妖怪を考えたりして、各自で課題を設定し、学習をより深めることができた。

③校区訪問

本校では令和元年度まで、保護者の協力を得て、児童と教職員で地域を分担し、校区内全てのお宅を一軒一軒訪ねる「校区訪問」を年に2回行っていた（令和2年度から郵送）。校区訪問では、6月の「七夕集会」と11月の「学習発表会」の案内を配布し、地域の方と直接会話する機会ともなっていた。子どもたちが来る



と喜んでくれ、「これ持って帰って食べな。」とお菓子を持たせてくれるなど、歓待してくださる地域の方も多し。校区訪問を通して、児童は多くの方々に期待され、見守られていることや、自己有用感を実感できる機会となっている。また教職員も地域に出向くことで、学校への期待や願いをひしひしと感ずることができると。

児童数の減少から、校区内全ての家庭を訪問するのが困難になってしまったため、地域やその住民との繋がりや今後どのように図り、地域の思いにどのように応えていくかが課題である。



④ 吾橋ふれあい運動会

本校の運動会は「吾橋ふれあい運動会」として、老人会、婦人会などとの共催で行っている。令和2年度からは児童の紅白対抗種目の実施も困難になり、内容を大幅に見直して、午前中だけの開催とした。運営進行にあたっては保護者や地域住民からの協力は不可欠で、まさしく学校地域一体の運動会である。本校卒業の中高生も、演技への参加や運営などフル回転の活躍で、小学生へのよい手本になっている。こうした姿を見ると、吾橋地区が一体となって児童をサポートし、応援してくれている伝統が、脈々と受け継がれてきたのだと実感する。



朗読劇「お手紙」

⑤ 学習発表会

運動会と同様、学習発表会も校区内全てのお宅に案内をしている。こちらも、従来は「七夕集会」で行っていた器械体操の演技や自作の俳句の発表を、本年度は学習発表会で実施するなど、幼稚園の休園や児童数の減少、コロナ感染症対策などにより内容を大幅に見直した。今後とも必要に応じた柔軟な対応や見直しを行い、内容の充実を図っていききたい。

(3) ゲストティーチャーとの関わり

① 読み聞かせ

毎月第1水曜日には、読み聞かせの会「山ぶきの会」の方々による読み聞かせがある。コーディネーターの方にご協力をいただき、絵本の読み聞かせや、「祖谷の源内さん」や大蛇などの地域の伝承話をしてくださっている。読み聞かせの後には、全校児童が感想等を発表する時間を設けており、こうした場面があることで児童は集中して聞くことができている。また聞く姿勢や態度がよくなり、話の流れや要点をつかむ聞き方や、感じたことや考えたことを短時間でまとめて話す技能などが身につけていっている。





②早蕨俳句会との交流

俳句同人「早蕨」との交流では、同人誌への毎月の投句と、年に1度ゲストティーチャーとして来校いただいて俳句会を行っている。早蕨俳句会の数名と一緒に学校の敷地周辺を散策しながら自然にふれることで、指導して下さる先生も驚くほどの瑞々しい感性にあふれた俳句が生まれている。普段は句作がなかなかできない児童も、指導に来てくださった同人の方との雑談や話のなかで、思わぬ発見やことばが出てくるようである。

③N I E 出前授業

徳島新聞メディアN I E・N I B推進室の野口幸司先生には、昨年度・本年度と続けて、出前授業をしていただいた。新聞ならではの特質を活かして、活字にふれることのおもしろさや、想像をふくらませながら見たり読んだりすることの楽しさを味わったり、論理的な思考の基礎となる読み方のヒントを学んだりすることができた。教材の工夫や提示の仕方によっては、児童数の多少に関わらず、「主体的、対話的で深い学び」に繋がる学習ができることを、教職員も学べる機会になった。



(4) 児童会等の取組

①集会活動

毎月第1月曜日には、前月の生活目標の振り返りと、今月の具体的な行動目標について、異学年グループで話し合いを行っている。それぞれの学年に応じて自分の考えをまとめ、意見を交換している。低学年は高学年の発表の仕方をまねたり、高学年は低学年にわかりやすく発表し、低学年の意見をくみとる配慮を行ったりするなど、相互に学び合える機会になっている。また、いじめ防止委員会にむけての話し合いも児童集会で行っている。

令和2年度 吾橋小学校 学習発表会プログラム

令和2年11月29日(日) 10:00~ 吾橋小学校体育館

【開会式】

- 1 ばじめのことば
- 2 児童代表あいさつ



順	題 名	発表者
1	体育発表「マット跳び箱運動」	小全
2	生活科発表「たんけん はっ見 生かつか」	1・2年
3	総合的な学習発表「三好市の妖怪伝説」	4・5・6年
4	俳句発表「吾橋の秋を詠う」	小全
休 憩		
5	朗読劇「お手紙」	小全
6	合奏「かえるのがつよう」「曇雷」 合唱「明日を信じて」	全

【閉会式】

- 1 学校長あいさつ
- 2 おわりのことば



年2回発行の「吾橋校だより」と学習発表会プログラム

吾橋校だより

山の木々も色づき、秋の深まりを感じるころとなりました。吾橋校区の皆様、元気でお過ごしでしょうか。二学期も、地域の方々とともに多くの活動を行うことができました。学習発表会にも、誇りをお寄せの上、ぜひお越しください。

○学習発表会
12月8日(日) 昼1時半より
吾橋小学校 体育館



②朝の活動

朝の活動は基本的に全校児童で行っており、担任だけでなく多くの教職員で児童を見取ることに繋がっている。また上級生が下級生をリードしてさまざまな活動を行うなど、集団づくりにとっても、重要な役割を果たしている。



取付道路の坂道清掃

○清掃活動（毎週火曜日）

本校は、児童数が少ないこともあり、運動場は雑草が生えやすい。また学校への約250mの取付道路は、落ち葉の季節や強風後の清掃が特に懸案となっている。毎週火曜日は清掃活動として位置づけ、全校で草取りや落ち葉掃きに取り組んでいる。児童は20分間無言で掃除に取り組むことができおり、勤労や奉仕の心情が育っている。

○読書タイム（毎週水曜日）

毎週水曜日には、児童・教職員全員がランチルームに集合して読書に取り組んでいる。図書室や移動図書館「あおぞら号」で借りた本を静かに読んでおり、読み終えた本は読書カードに記録し、その冊数に応じて読書賞の表彰も行っている。年間に200冊以上読む児童もおり、読書に親しみ、じっくりと読書する態度などが育つなど、読書活動の柱になっている。



保健集会

③委員会活動

委員会には、「図書・ボランティア」と「健康」の2つの委員会があり、本校の4～6年生がどちらかの委員会に所属している。各委員会では1年に数回の集会活動を計画・実施している。「図書・ボランティア委員会」が計画した「読書まつり」では、絵本からのクイズやおすすめの本の紹介、読み聞かせなど、盛りだくさんの内容で、子どもたちが読書により親しむ機会になった。



読書集会での読み聞かせ

声の大きさなどの発表の仕方については、指導の必要な児童もいるが、大勢の前で話したり、表現したりするための技能を身につけるうえでも、貴重な時間となっている。

(5) 全校での活動

①全校遊び

毎週火曜日の昼休みは「全員遊びの日」として、全校児童と全教職員で同じ遊びをする時間としている。遊び自体はおにごっこや、ドッジボールなどのボールを使った遊びが多いが、1年生から大人までが同じ遊びをすることで、みんなが楽しめるルールを考えたり、上級生から下級生への心配りや下級生から上級生への尊敬、敬慕



といった心情を育んだり、またときには我慢もしたり……といった経験ができる時間である。

児童が通常の生活を送っているだけでは不足しがちな経験を補っていけるよう、今後とも児童の生活をしっかりと見取っていききたい。

②作文指導（毎週木曜日）

毎週木曜日は、「作文読本」を使い、作文指導を行っている。言葉を用いた的確・明快に表現し、伝達する力をつけることは、言葉を通じてよりよく考える力を養うことにつながる。児童作品の投稿も積極的に行っており、令和元年度は、全児童の作品が「作文読本」に掲載された。また行事の感想やゲストティーチャーへのお礼の手紙など、文章を書く機会を計画的に設け、言語能力の向上を図っている。

③全校学習（人権・道徳）

道徳や人権の学習は、通常は低・中・高学年の学級毎に行っているが、それに加えておおよそ1学期に一回程度、そのときどきの児童の生活の様子に応じた教材を使って、全校学習を行うようにしている。

本年12月には、「バトンをつなげ」（東京書籍5年）を全校で学習した。自分にとって、「バトンをつなぐ」ことの意味について考えるとともに、自分たちの生活や学校のよさを改めて振り返り、学校生活をさらによくしていくために一人一人がどのように行動できるか、について学習することができた。全校学習は、人の話を聞いて的確に応じたり、意見を交換したり集約したりするなど、各学級だけでの授業では行いきにくい学習のよい機会となっている。1年から6年までの児童が同じ教材で学習を行うことには難しい面もあるが、今後とも積極的に取り組んでいきたい学習である。

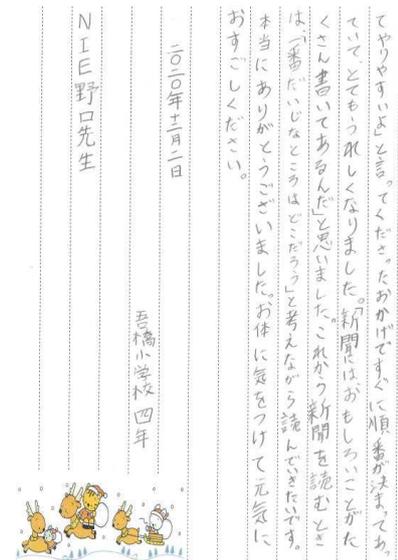
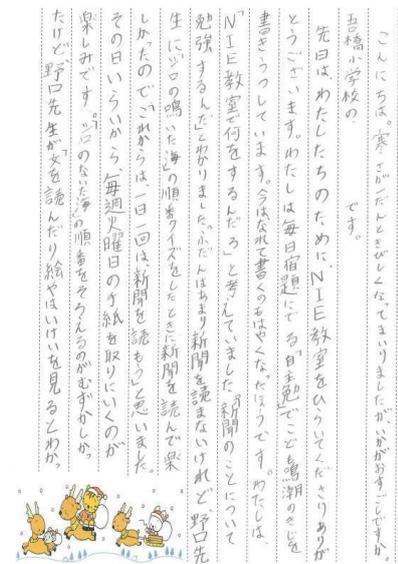
4 成果と課題

(1) 成果

○自分の考えをまとめる活動やいろいろな場面で発表する機会を増やすことで、児童の思考力や表現力が身につく、自信を持って発表できるようになっている。

○全校での活動を行うことで、上学年の行動や態度を手本とすることができ、低学年の児童もスムーズに活動ができている。

○児童の一人一人をしっかりと見取ることができ、つまづきや困り感の見られる児童、その活動に苦手意識のある児童への対応を早く行うことができている。



全校学習「バトンをつなげ」

○チェーンスクールの活動では、普段の学習や活動と異なり、他校の児童の多様な考え方や価値観に触れることができ、思考の広がりや深まりが見られた。また積極的に自分の考えや意見を発表する力が育っていった。

○合同での学習や行事を通して、児童と卒業生、地域の方々との交流がはかられ、コミュニケーション力が向上した。

○地域の方々やゲストティーチャー等の協力を得て、ふるさとの歴史や文化について学習を深めることができた。またふるさとのよさを実感し、より愛着が深まることで、学ぶ意欲への高まりが見られた。

○学校行事への参加など、保護者や地域の方々が積極的に学校に関わっていただき、児童の様子や学校の状況への理解が進んだ。またさまざまな人からの声かけや評価が、児童の意欲の向上や達成感につながった。

(2) 課題

○話し合い活動での意見の交換はまだまだ少なく、一人の意見に流されたり、物事が決まったり、話し合いが行き詰まったりする場面がある。子どもたちの活動や話し合いもマンネリになりがちで、児童の「経験」をさらに豊かなものにする必要がある。

○体験的な活動や全校学習を一過性のものにするのではなく、他の学習や行事と関連づけるなど、さらなる体系化を図る必要がある。

○チェーンスクール3校の現状とこれからについて、さらなる共通理解を進め、小学校同士や小中の連携と取り組みの点検と見直しを行う。

○学校の教育活動をさまざまな方法で発信し、地域の方々との連携や協働を一層工夫する必要がある。

○校区外・市外への見学や学習には時間や費用が多くかかる。ICTの有効活用を推進し、移動による時間のロスを解消し、オンラインによる新しい交流や学びを作る取り組みが必要である。

5 おわりに

社会情勢の変化やコロナウイルス感染症の拡大など、学校教育を取り巻く現状は厳しさを増している。また児童数の減少や地域の衰退にともなって、本校でもさまざまな教育活動の見直しが迫られている。ただこうした課題はいずれ日本中の多くの地域で訪れる課題であり、吾橋教育・三好教育はこれからの日本の教育を先取りしている、とも言える。そうした気概を持って、今後とも研究を積み重ねていきたい。



表現リズム遊び・表現運動の指導の現状

－調査から分かったこと，研修会で学んだこと－

三好教育研究所 研究員 中瀧由紀

1 はじめに

平成20年度の学習指導要領改訂から，中学校ではダンスが必修になり，小学校では表現運動の内容がリズムダンスやフォークダンスになった。新学習指導要領においても従前どおりの内容である。しかし，ダンスが必修化された直後に，公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会が，中学校保健体育の教員に表現運動・リズムダンスの授業への取り組み状況についてのアンケート調査を行った結果，厳しい現状が見えた。ダンスの授業の実施に不安があると答えたのは，男性教員で90%，女性教員で58%にもなっていた。私自身も，表現運動の指導は苦手な分野である。小学校でも，同じように指導に不安を感じている教員が多いのではないかと考えるが，三好郡市内で体育を担当されている先生方はどう感じているのだろうか。

体育科の目標である『運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，楽しく明るい生活を営む態度を養う』ということ踏まえ，教師が自信をもって指導し表現運動・ダンスを楽しみながら教えることで，児童生徒も興味関心を深め，運動の楽しさや喜びを味わうという目標を達成できるのではないかと考えた。

2 研究の目的と方法

本研究にあたり表現リズム遊び・表現運動についての課題や手立てを調査し研究報告することが，今後の先生方の取り組みに少しでも役に立つのではないかと考え，研究主題を設定した。そこで，まず各学校現場で実際に体育指導をされている先生方にアンケート調査を行い，そこから見えてきた表現リズム遊び・表現運動の指導の現状と課題，工夫や手立てを明らかにすることとした。先生方には，お忙しい中多大なるご協力をいただき，深く感謝しているところである。

また，自分自身が表現運動を楽しみながら教えたいと思い，スポーツ庁・厚生労働省・教育委員会後援のJDACダンス指導研修会に参加し自己研修を行った。そこでの研修の学びを報告したい。

3 ダンス指導に関するアンケート

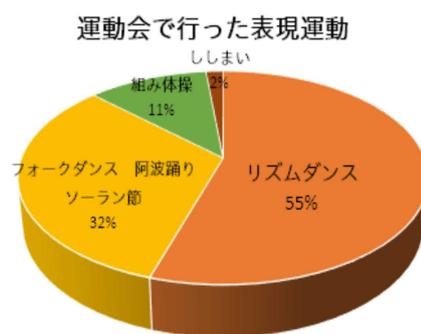
- | | |
|-------|----------------------------------|
| ・実施目的 | 表現リズム遊び・表現運動を指導する際の課題や工夫等を調査するため |
| ・実施期間 | 2020年3月19日～2020年3月31日 |
| ・実施方法 | 学校ごとにアンケート用紙を配布し，記述式にて回答 |
| ・対象 | 三好郡市内小学校の2019年度体育の指導者 |

■結果（一部抜粋）■

- ・回答者数 61名

(1) 2019年度運動会で指導した表現運動は何ですか。(複数回答)

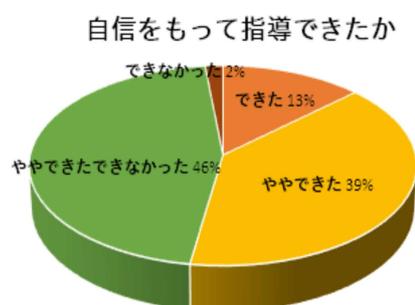
リズムダンスを指導した理由は、「運動会に適している」「当時流行っていたから」「児童の実態に応じていた」などであった。フォークダンスは「学校の伝統だから」「他のダンスより指導しやすい」「地域の方との交流の場になっている」「阿波踊りで地域の方にお世話になっているから」「保護者も一緒にするため」などであった。組み体操は、「学校の伝統だから」「他のダンスより指導しやすい」「運動会に適しているから」だった。(図1参照)



(図1)

(2) 1年を振り返って、表現運動は自信をもって指導できましたか。

できたと答えた人は全体の13%だった。理由は「動画を参考にしたから」「前にも指導したことがあったから」であった。ややできたは全体の39%で、理由は「研修を受けていたから」「運動会で盛り上がっていたから自信になった」「安全面を考慮しながら指導できたから」「研修を受けた先生から教えてもらったから」だった。研修を受けることで、自信につながったことが分かる。



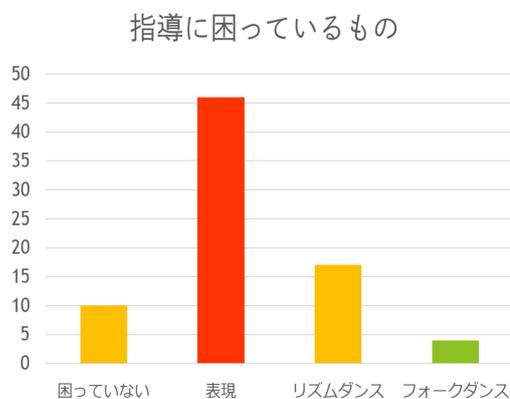
(図2)

ややできなかつた、できなかつたと答えた人が全体の48%で、約半数の人が満足いく指導ができなかつたことが分かる。理由の多くは、「自分が表現運動が苦手だから」「自分がダンスや表現運動をあまりしたことがなく、自信が持てなかつた」だった。他にも、「授業時数の確保が難しく表現運動をきちんと指導できなかつたから」「時数の確保が難しく、運動会の練習に表現運動の時間を充てるしかなかつた」「運動会の表現運動を体育の表現運動として評価してしまったから」というコメントもあつた。また、「授業の準備があまりできなかつたから」「子供の実態をよく把握できなかつたから」「導入の段階で、児童の興味関心をひく動きを考へることができなかつたから」「ある程度の動きを教師自身もできないといけないと感じたから」「言葉かけが難しく、児童の動きを十分に引き出せなかつたから」「授業の進め方がよく分からず、自信をもって指導できなかつたから」という回答があつた。以上の結果から、自信をもって指導するには、研修を受けたり他の教科同様にしっかりと準備したりする必要があると感じた。(図2参照)

(3) 指導に困っているものがありますか。

(4) 具体的に困っていることは何ですか。

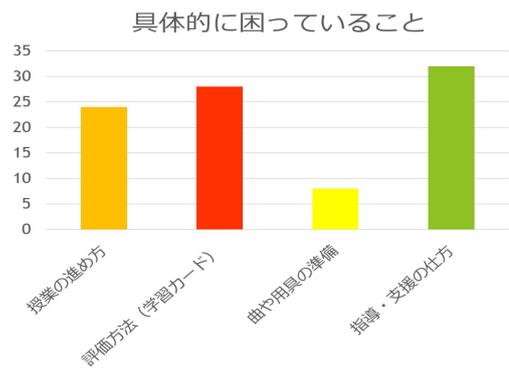
(共に複数回答可)



(図3)

「表現」が群を抜いている。続いて「リズムダンス」となっている。複数のダンスの指導に困っていると回答した人もいた。(図3参照)

また、具体的に困っていることでは「指導・支援の仕方」「評価方法」「授業の進め方」の項目において、延べ30人前後の人が苦勞していることが分かった。曲選びに困っているとの回答も多かった。(図4参照)



(図4)

(5)実際に表現運動を指導した時期と時間数

この問いに関する回答は興味深い。8月と9月に表現運動の指導を行った人が集中していた。8月と9月に、50人の人が延べ454時間表現運動の指導を行っていた。(2)の問いのコメントにもあったが、運動会の表現運動の練習に充てたのだろうと想像ができる。時間数の確保に苦勞していることが分かった。(図5参照)

※3月はコロナウイルス感染防止のため休校。



(図5)

(6)指導上の課題だと思ふこと (一部抜粋)

- ・やらなくてはいけないと、力を入れて構えないでいい。(1時間中せず、導入で行う)
- ・表情作りやリズム感をつけることが難しい。
- ・指導しやすい曲が入ったCDがあれば便利になると思う。準備の時間も省ける。
- ・表現運動やダンスは、運動会以外で行いにくくて困る。
- ・授業で創作した表現を運動会で発表したいが、学校の伝統もあり兼ね合いが難しい。
- ・スポーツの動きをかけあわせた表現運動があればいい。(サッカーのブラジル体操など)
- ・自分が表現リズム遊びが苦手なので、どんな指導法があり、どのように授業を進めていけばよいか具体的に知りたい。
- ・夏の研修の場所は遠いし、日程が合わなければ参加できない。
- ・外部講師に授業をお願いしたい。または、表現やリズムの講習会などを開催してほしい。
- ・評価方法が分からない。
- ・教師の表現運動の引き出しの少なさや表現力不足が問題である。
- ・音楽の大切さを痛感する。音楽なしで表現すると、空間や人数を有効的に使えていなかった。展開を工夫した表現運動にするための効果的な指導方法が知りたい。
- ・教師自身の表現運動への理解不足が課題だと思う。
- ・ダンスが苦手な児童や動きがかたい児童に対して、分かりやすい指導や支援がないか。
- ・教師自身が提示できる動きが限られてしまう。
- ・高学年になると、自由にのびのびと表現することに苦手意識をもつ児童がいる。

- ・授業の展開例があれば助かる。
- ・小規模校なので全校体育である。運動会のダンスは低学年に合わせて選んだり作ったりしたが、かなり迷った。全員が楽しめる内容と指導法を工夫するのは難しいと感じた。
- ・指導者が表現運動（ダンス）を楽しいと思うことが大切である。
- ・研修を受けた先生が表現運動の担当をしてもらえることが多いが、それ以外の人の指導は難しい。特別な研修が必要な指導内容であると思う。

(7)授業で工夫したこと、効果的だったこと（一部抜粋）

- ・子供の普段見られない、自由なところが見られたことが良かった。
- ・低学年の支援の必要な児童にとって、知っている曲（アニメ等）を選ぶとスムーズに学習に取りかかることができた。
- ・導入でゲームなどを行い、気分を盛り上げてから活動したことが効果的だった。
- ・短い表現を繰り返し行くと良かった。
- ・グループでの表現と発表会をしたことが効果的だった。
- ・全員、片手にタンバリンを持って踊らせてみた。子供たちはリズムに合わせて、楽しみながらタンバリンを振ったりたたいたりしながら踊ることができた。
- ・動画サイトで見つけたダンスを適時見せておくと意欲を刺激することができた。
- ・まず研修を受けて、教師が自信をつけて指導することが大切であると感じた。
- ・児童のダンスの様子をビデオで撮影し、確認させた。自分の動きを確認することができ、効果的だった。
- ・教師だけでなく、児童が動きの例を示したり、動きを考えたりすると意欲が高まった。
- ・準備運動で、簡単なリズムダンスを取り入れる。
- ・運動会の組み体操を通して、子供同士の信頼感や連帯感の向上につながった。
- ・話し合いの時のヒントカードを工夫した。
- ・「つま先、指の先まで力を入れるよ」などの分かりやすい声かけをした。
- ・気持ちの指導をした。（なりきっているか）
- ・グループ活動を行ったとき、協力してできていた。
- ・球技等が苦手でも、ダンスや表現運動が得意な児童の個性が引き出せた。

4 自己研修内容の報告

(1)講習会

研修会 I

- ・座学 『学習指導要領について』『ダンス必修化につて』『ダンス理論』等
- ・実技 実践練習
『ストレッチ』音楽に合わせて動的に
『シングルストレッチ』『ペアストレッチ』
『アイソレーション』体の各部分を別々に動かす
『リズムの基礎』



(画像出典 JDAC HP より)

『作品作り』グループになって
『発表会』グループごとに
『ディスカッション』等

研修会Ⅱ

現代的なリズムのダンスに重点をおいた実技練習が中心の1日だった。講師は元小学校教師や現役教師も多数おり、言葉かけや児童生徒の心理をついたアドバイスがもらえた。児童生徒の気持ちになって受講していたが、ダンスが苦手な私でも分かりやすく取り組みやすかった。



(画像出典 JDAC HP より)

(2) 3つのダンスについて

【現代的なリズムのダンス】

①現代的なリズムダンスを知る

様々なリズムに合わせて弾むように踊るダンスである。ヒップホップやロックダンスなど、ステップを組み合わせて振り付けを作り、その振り付けを覚えて踊ることでリズム感を養い、運動能力を向上させる目的がある。大人数で踊ることがほとんどで、チームワークが大切になる。友達への心配りや連帯感を養うにはぴったりなダンスである。

②DKW (ダンスキーワード) や基本のステップを知る

- ・音先 (おとさき) …音が先に流れてから踊り出すこと
- ・板付 (いたつき) …動きが先で音が後から流れること
- ・アップとダウン
- ・おもてのリズムとうらのリズム
- ・きっかけだしの言葉 「いっせいのーで」「1・2・3・ハイ!」「5・6・さんハイ」
- ・基本のリズムダンスステップの習得

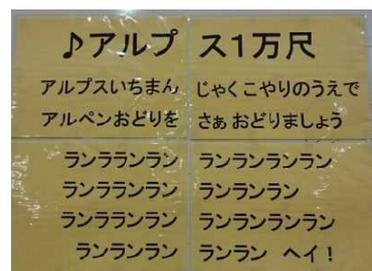
サイドステップ (シングル・ダブル) スライド ボックスステップ ポップコーン
ランニングマン クロスステップ クロスターン サイドランジ など

- ・動きの名称 「ユニゾン」 全員が同じ動きを同時にする。
- 「カノン」 同じ動きを輪唱のようにタイミングをずらして行う。
- 「シンメトリー」 左右対称の動きをする。
- 「アシンメトリー」 非対称の動き、対象ではない動きをする。

③oneエイト 8 8 4 4 2 2 1 1 1 1 カウントがとれる (2小節分がone 8)

アルプス一万尺 子槍の上で	12345678	one8
アルペン踊りをさあ踊りましょ	12345678	one8
ランララン ランランランラン	1234	one8
ランララン ランランラン	1234	
ランララン ランランランラン	1212	one8
ランランラン ランラン ハイ!	1111	

(ハイ!は好きなポーズをとる)



④リズム遊びができる

アルプス一万尺で手遊びをする。

個人 サイドステップやキックでリズムをとる。

2回目は前後で向かいあって行う。

ペア 「アルプス一万尺」の手遊びをしながら、アップとダウンを繰り返す。

A 「アルプス一万尺」を歌いながら、ペアで向かいあってアップ・ダウンを行う。1人は両手を左右に広げてクラップ、もう1人は上下に広げてクラップをし、タイミングをずらして手がぶつからないようにする。

B 左右ステップ：「アルプス一万尺」を歌いながら、左に7歩進み8歩目でジャンプ。右に方向を変えて7歩進み8歩目でジャンプ。左に3歩進んで4歩目ジャンプ。続けて右へ同様に。左へ1歩進んでジャンプ、続けて右へ同様に、ジャンプ・ジャンプ・手拍子！で終わる。慣れてきたら、スピードアップして行ってみる。

C 前後ステップ：左右と同じやり方で、動き方を前後に変えて行う。失敗しても楽しく笑顔で行える。



(画像出典 JDAC HP より)

⑤最後に決めポーズをとる

「かぶっちゃダメよ、ハイ、ポーズ！」(かっこよくなどキーワードを言って)テンポ良く瞬間的にたくさんポーズをとらせる。時間を与えず、すぐ「ハイ、ポーズ」「ハイ、ポーズ」と指示すると意外と児童生徒はポーズをひねりだしてくれる。

(指導者が最初に何パターンか見せておくとヒントになる)

⑥BPM (beat per minute)を知る

BPMとは音楽で、楽曲の速さ(テンポ)を表す単位である。

1分間あたりの拍数(四分音符の数)で表す。(胸骨圧迫のBPMは100~120くらい。)

BPM 80前後	つつみ込むように MISIA / 大きな古時計 平井堅 花束を君に 宇多田ヒカル / キセキ GReeeeN 愛にできることはまだあるか RADWINPS
BPM 100前後	パプリカ Foorin / 世界にひとつだけの花 SMAP 恋 星野源 / マリーゴールド あいみょん
BPM 120前後	イノセントワールド Mr.Children
BPM 130前後	ダンシング・ヒーロー 荻野目洋子/ワタリドリ Alexandros RPG SEKAI NO OWARI
BPM 140前後	女々しくて ゴールデンボンバー / U.S.A DP AMP
BPM 160前後	サクラ咲ケ 嵐
BPM 180以上	前前前世 RADWINPS / ミツバチ 遊助 天体観測 BUMP OF CHICKEN

※楽曲のテンポと歌詞の速さの違いをよく聞き分けて選曲する必要があると感じた。

また、同じBPMでも歌詞がラップの場合はBPMが速く感じてしまうことがある。

BPM 80~100くらいのテンポがゆっくりで踊りやすい。

⑦振り付けのコツを知る

- ・手の動作を覚える・ステップに合わせる・曲に合わせる

◇ポイント◇

- ・使用する曲の歌詞の意味を考えた振り付けにする。
※洋楽を使用する場合は歌詞の意味に注意する。(訳を確認しておくことが大切)
- ・リズムや音を意識した振り付けにする。
- ・ワン・ツー・スリー・フォーのリズムではなく、動作に意味を付けると覚えやすい。
- ・曲のBPMに変化を付ける。最初はゆっくり動作を覚えてから速くしていく。
(BPM編集アプリ等使用すると、踊りやすい速さにすることもできる)

⑧評価をする

- ◆リズム系ダンス (何を見て、どう評価していくのかを明確にする)
- ・リズムの特徴をとらえているか。
- ・体の中心を動かして大きく踊っているか。
- ・仲間の表現や個性を認めて、楽しく踊っているか。 など

《現代的なリズムダンスの評価例》 よくできた◎ できた○ もう一息 △ 改善が必要×

リズム 技能	音楽のリズムと動きのリズムが合っている。 【縦のりができている】		
表現 技能	大きく踊っている。 【全身を使う】		
振り付け 思考・技能	動きと組み合わせることができる。 【ステップ, 手の動き, 顔の向き】		
表情 関心	恥ずかしがらず堂々と踊っている。 【顔を上げて, 胸をはって】		
チームワーク	仲間と息の合ったダンスをしている。 【声をかけ合ったり, 視線を合わせた りしている】		

※児童生徒にも互いに評価させる。ふつう評価をなくすことで、良いところやもっと良くなるところを一生懸命見つけようとする。

【フォークダンス】

①フォークダンスを知る

昔、フォークダンスはアニマルダンスと呼ばれており、狩りの収穫を祝って動物の動きをまねてみんなで踊るものだったとされている。第2次世界大戦後、フォークダンスを趣味にしていたGHQの教育担当者から日本に紹介され、戦後人々が娯楽に飢え



(画像出典 JDAC HP より)

ていた中傳承された。

その後、日本フォークダンス連盟や当時の文部省・各都市教育委員会などが普及に努めた。楽しい音楽に乗ってみんなで手を繋ぎ、ステップを踏むダンスである。「言葉は通じなくてもコミュニケーションはとれる」ということを立証してくれるダンスで、ともに踊ればお互い楽しい気持ちになり自然と心が通じ合う。

また、難しい振り付けはなく、老若男女全ての人が踊れるダンスである。日本の文化である盆踊りも同じようなことがいえる。運動会でも、阿波踊りやソーラン節やよさこい踊りのように日本古来の踊りをしている学校も多い。自国や外国の文化を理解し、コミュニケーションを図ることの大切さを学べるダンスである。

②フォークダンス用語を知る

【マイムマイムの指導の場合】

カップル パートナー シングルサークル ダブルサークル チェーケシアステップ
ランニングステップ ホップステップ など

③歌や踊りの意味を知る

【マイムマイムの指導の場合】

イスラエルで、開拓農民が砂漠地帯で水を掘り当てて喜ぶ様子を表した歌であるとされている。マイムマイムはヘブライ語で「水よ水よ」と言う意味で、ベッサンソンは湧いた喜びを表した言葉である。

イスラエルの場所を世界地図で確認させたり、砂漠地帯での水の大切さを考えさせたりすると学習が深まる。

④言葉かけを工夫する

例：手のつなぎ方（手の甲の向きを揃えるとき）

「前にならえ」「パチン・ぱたん・シャキーン・ぎゅ」

- 1 「前にならえ」
- 2 「パチン」と自分の掌を合わせる。
- 3 合わせた手を右にたおして「ぱたん」（右手が下，左手が上になるように）
- 4 「シャキーン」と腕を左右に広げる。
- 5 腕を左右に広げたままの手の向きで，両隣と手をつなぐ「ぎゅ」。

例：ステップの言葉かけ

前 横 後ろ びよん 前 横 後ろ びよん

前 横 後ろ びよん 右足から ハイ，マイム ハイ

マイム マイム マイム マイム マイム ベッサンソン （わいたよ～水だよ～！）

マイム マイム マイム マイム マイム ベッサンソン（ハイ，ランニング～）

（おとなりさんとタッチする時は、「ヘイ ヘイ」と声を出しながらタッチするよ～）

※児童生徒の気持ちを盛り上げながら，次の動作が分かる声かけをすることがポイント。

⑤評価をする

◆民謡・フォークダンス （何を見て，どのように評価するのかを明確にする）

- ・踊りの由来や特徴をとらえているか。
- ・感じを込めて踊っているか。 など

【創作ダンス】

①創作ダンスを知る

決まった振り付けはなく、自由に身体を使い表現するダンスである。形式や様式にとらわれず個々の「自由な」表現をすることが大切になる。正解、不正解のないフリースタイルなダンスで、即興性のあるダンスを指すこともある。

学校教育では、自由な自己表現をすることで「想像力」や「表現力」を磨く目的がある。テーマに沿った振り付けを子供たちが考えるのだが、動きの大小や、力強さ・穏やかさを出す動き、といった対比を意識するだけでなく、起承転結や緩急をつけた構成を考える必要がある。さらに、動きに合わせた音楽も選んでいく。

②はじめの一步を学ぶ

- (1) テーマを考える 身近なものをテーマにする。
- (2) イメージする 何を表現するのか。何を伝えたいのか。
- (3) 方向性を決める 和か。洋か。(既定のジャンルにこだわらなくても良い)
※役割分担をする。リーダーを決める。
※音楽選びをする←重要 (イメージと合っているか)
- (4) ストーリーを考える 『はじめ・なか・おわり』
『起・承・転・結』
- (5) 振り付けを考える 見たことや感じたことを体の動きで表現する。(ひと流れの動き)
※フォーメーション (群の形) や空間の使い方を工夫する。

③3つのキーワードを教える

- ・ユニーク …… 個性を生かした作品作り
- ・アバウト …… 柔軟な発想で
- ・ダイナミック …… 大きな空間、大きな動き

④ポイントを押さえる

- ・大きく体を動かしてみよう。
- ・恥ずかしがらないでやってみよう。
- ・仲間といろいろなアイデアを出し合おう。



(画像出典 JDAC HP より)

⑤題材の選択例を示す

- ・反対 (対極) の動きの連続や群の動きなど動きのひと流れを示す。
 - ➡ イメージを広げる方向 (跳ぶ, 転がる)
- ・日常生活のイメージ, 多様な感じなどから。
 - ➡ イメージからダンスの動きを見つけ出す方向
- ・ものと関わりなどから。
 - ➡ イメージや動きを見つけ出す方向

例

演題	たんぼぼの一生	ふだんは気にならない花にもドラマがある…
はじめ	綿毛がとばされ 空を自由に飛び回る	
なか	はらはらと着地する 大地に根を張り 葉を広げていく 茎を伸ばし つぼみをふくらませ 花を咲かせる 風雨に耐え 人に踏みつけられても たくましく成長する	
おわり	花びらを静かに落とし 新しい命を宿し 再び 空を自由に飛び回る	



⑥評価をする

◆表現系ダンス (何を見て、どのように評価するのかを明確にする。)

- ・連続した動きやひと流れの動きの良さ
- ・強弱や高い低い など

《創作ダンスの評価例》 十分満足◎ おおむね満足○ 努力が必要△ かなり努力が必要×

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
恥ずかしがらず堂々と大きく踊っている。(関心・意欲・態度)			
感じを込めてメリハリをつけて表現している。(表現・技能)			
テーマと合っていて「はじめ・なか・おわり」のひとまとまりの作品になっている。(テーマ性・イメージ力)			
友達と息の合ったダンスをしている。(チームワーク)			
合計			

※ふつう評価をなくすことで、あやふやな評価がなくなる。児童生徒が互いに評価し合うことで、刺激になり創作意欲がわいてくる。

5 3つのダンスの指導例

◇指導例① リズムダンスの導入 「振り付けを考えて踊ろう」

時間	学習内容と活動	○指導・支援 ◇評価 ◎ UD の視点からの手立て	準備物
10分	1 心と体のウォーミングアップをする。アイソレーションやリズム遊びをする。 2 めあてを確認をする。	○簡単なリズム遊びやストレッチを行い、心と体をほぐさせる。 ◎学習の流れを掲示する。(視覚化)	学習の流れの掲示

振り付けを考えて踊ろう

10分	3 基本のステップを練習する。	○始めはゆっくりと動きを確認しながら練習させる。	
15分	4 曲を聞き、手で拍をとって曲の速さをつかむ。 5 グループで振り付けを考え、教え合いながら練習する。	○踊りやすい BPM 80～100程度の曲をかける。 ◎グループ内でダンスを見合ったり教え合ったりするようにアドバイスする。(共有化)	CD等 タブレット
5分	6 グループごとに発表する。	○良かった点・もっと良くなる点を考えながら見るよう助言する。	
5分	7 学習カードを記入し、感想を伝え合う。	◇リズムに乗って楽しく踊ることができる。(観察)	学習カード

◇指導案② フォークダンス 世界の踊り 「楽しくコロブチカを踊ろう」

時間	学習内容と活動	○指導・支援 ◇評価 ◎UDの視点からの手立て	準備物
5分	1 心と体をほぐす。 2 めあてを確認する。	○音楽やリズム太鼓を効果的に使用する。 ◎ペア運動をさせる。(共有化)	リズム太鼓
15分	3 踊りの特徴を知る。 ①コロブチカの由来について知る。 ②曲を聴く。 ③動画を視聴して踊り方の感じをつかむ。	◎学習の流れを掲示する。(視覚化) ◎動画を視聴させ、踊り方をつかませる。(視覚化)	学習の流れの掲示 世界地図 CD
20分	4 踊り方を知る。 ①ペアで列になる。 ②教師の指導で試しに踊る。 ③課題について確認する。 ・リズムカルなホップ ・スリーステップターンの速さ ・位置交代の流れ ④2グループに分かれ見せ合い、教え合いながら練習する。 ⑤円形になって踊る。	○口伴奏で分かりやすく助言する。(行ってホップ 戻ってホップ) ◎ペアで教え合うよう声かけをする。(共有化) ○スリーステップターンを男女とも行い、次の人と右手を取り合って位置交代を確認させる。 ○リズムに乗れない児童には、太鼓をゆっくりたたく。 ◇コロブチカの踊り方を知っている。(観察) ◇リズムに乗って楽しく踊ることができる。(観察)	タブレット
5分	5 学習カードを記入し、感想を伝え合う。		学習カード

◇指導案③ 創作ダンスの導入 「体でじゃんけんダンスをしよう」

時間	学習内容と活動	○指導・支援 ◇評価 ◎ UDの視点からの手立て	準備物
10分	1 心と体のウォーミングアップをする。手や足を使ったアサーションをする。 2 めあてを確認をする。	○簡単な手遊びや足のストレッチで、心と体をほぐさせる。	掲示物 太鼓
10分	3 体でじゃんけんをする。 ①体全体でじゃんけん →3つのじゃんけんを表現する。	○テンポ良く瞬間的に表現させる。 ○大きな声でカウントをとり、楽しい雰囲気をつくる。	学習の流れ キーワード の掲示
20分	②5人に勝つまで足じゃんけん ③体全体でじゃんけん →負けると生き物になる。 (ダンゴムシ・カニ・クジャク)	◎学習の流れやキーワードを掲示する。(視覚化) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> キーワード ・右左(反対の動き) ・高い低い ・交差 ・大きく ・離れて寄って ・最後はポーズ </div>	
	4 じゃんけんでダンスをする。 ①キーワードを意識して、ペアでオリジナルじゃんけんダンスを創作する。 ②2組ずつ発表する。	◎ペアで教え合うよう声かけをする。(共有化) ○大きな動きやおもしろい動きの児童をほめ、紹介する。困っていたら助言する。 ○音楽と手拍子で盛り上げる。 ◇友達と協力して作品を作ったり練習したりしている。 ◇体全体を使って楽しんで表現している。(観察)	
5分	5 学習カードを記入し、感想を伝え合う。		学習カード

6 おわりに

ダンスが必修化されてから10年以上経過している。私も当初はダンス指導に不安があったが、アンケートをまとめたり自己研修したりしたことで、ダンスを楽しみながら指導できる自信がついてきたように思う。研修会2日目に、グループごとにリズムダンスを踊るという課題が出た。講師が考えた既定の振り付けで踊り、曲のサビの部分は受講者で話し合い構成や振り付けを考えるものだった。ダンス未経験者がほとんどで、フォーメーションなど考えたことも無い様子から最初はどうなるかと思ったが、その分枠にとらわれず个性的で楽しい内容になっ

た。発表では、それぞれのグループのオリジナリティ溢れるダンスにみんなで盛り上がった。ぎこちなさはあったが、他の体育の単元にはない不思議な一体感でダンスを楽しめている感覚になった。ダンスの得意不得意はそれほど重要ではなく、一緒にダンスを作り楽しむことが大切だと感じた。

昨年度、学校ダンス発表会を見学した。発表校の演技を見ている他校の児童生徒は、自然と音楽に合わせて体を揺らしたり笑顔で手拍子をしたりしていた。数あるスポーツの中でもダンスは、高く跳んだり速く走ったりしなければならないということはない。運動が苦手な子供にとって、体育の時間は憂鬱かもしれない。しかし、ダンスから体を動かすことの楽しさや、友達とダンスを作っていく一体感、踊りきった後の心地良さを感じることで、休み時間に外で遊ぶことが増えたり、難しい技にチャレンジしたりと、積極的に運動に親しむきっかけになってほしいと願う。その様な効果がダンスにはある。今後さらに児童生徒、そして教師自身が、形にとらわれず表現運動・ダンスを楽しみ、多くの児童生徒が運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう努力していきたい。

参考文献・URL

- ・小学校学習指導要領
- ・中学校学習指導要領
- ・『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編 大修館書店(2015)
- ・『創作課程がよく分かる！授業に役立つダンス指導の決定版～創作ダンス&現代的なリズムのダンス～』DVD 指導・監修 宮本乙女・藤田久美子 (2017)
- ・JDAC ダンス指導者講習会講義〈初級・2級〉
- ・一般社団法人ダンス教育振興連盟 <https://www.jdac.jp/>
- ・公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会 <https://nssa.or.jp/>

小学校の授業で活用できるプログラミング教育教材

三好教育研究所 研究員 橋本 早弥香

1 はじめに

学習指導要領の改訂において、プログラミング教育が2020年度は小学校、2021年度は中学校、2022年度は高等学校で導入され、大学入学共通テストの出題教科として2025年度から「情報」を新設する案が出ている。

「小学校学習指導要領解説 総則編」では、子供たちが将来どのような職業に就くとしても時代を超えて普遍的に求められる「プログラミング的思考(*)」を育むため、児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考を身に付けるための学習内容を計画的に実施することとしている。プログラミングに取り組むねらいは、

- ・論理的思考力を育むこと
- ・プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることなどに気付き、身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータ等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育むこと
- ・教科等で学ぶ知識及び技能等をより確実に身に付けさせること

である。これらの実現に向け、「小学校プログラミング教育の手引き（第三版）」では、まずプログラミングやコンピュータの活用でそれらの楽しさや面白さ、達成感を児童に味わわせることによって、プログラムのよさ等への「気付き」を促し、コンピュータ等を「もっと活用したい」、「上手に活用したい」といった意欲を喚起することができるとしている。さらに学習活動に意欲的に取り組むことにより、「プログラミング的思考」を育み、プログラミングを学習活動に取り入れることで各教科等の学びも充実していくことが期待されている。

小学校学習指導要領では、算数科、理科、総合的な学習の時間において、児童がプログラミングを体験しながら、論理的思考力を身に付けるための学習活動を取り上げる内容やその取扱いについて例示している。例示以外の内容や教科においても実施することが可能であり、学校の教育目標や児童の実情等に応じて工夫して取り入れていくことが求められている。小学校において今年度より導入された教育だからこそ、学習内容と関連付けたプログラミング教材の研究や授業実践の取り組みが早急に必要だと考え、本研究に取り組んだ。

*自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力

2 研究の概要

本研究では、文部科学省のホームページでも紹介され、全国的にも小学校で使用されているビジュアルプログラミング言語「Scratch」と「Viscuit」を使用した。三好郡市の小学校でも、これらを使った授業実践や授業計画が行われている。作成した教材を活用できるよう、インターネット上にある三好郡市教職員グループウェア「ミライム」の掲示板に全会員を対象に、学習内容と

関連付けたプログラミングやプログラミングの操作方法を掲載した。また、ニーズに応じてプログラミングの授業や教員研修を行った。

3 教材作成

(1) ビジュアルプログラミング言語「Scratch3.0」

【投稿内容の一覧】

	見出し	内容
操作 方法	走る	・スプライト（キャラクター）が歩く，走る。
	会話	・スプライトが PC の画面上で会話（文字）をする。
	写真の取り込み・加工	・写真やインターネットの画像の取り込みと加工，編集
	位置設定	・スプライトの位置設定
	矢印キー	・PC の矢印キーを用いたスプライトの動き（移動やジャンプ）。
	幽霊	・スプライトのフェードアウト，フェードイン
	オリジナルイラスト1	・ビットマップモードでのイラスト作成
	オリジナルイラスト2	・ベクターモードでのイラスト作成
	作品合体	・個人で作成したイラストを合体し，グループや学級で1つの作品にする。
	クイズ	・スプライトが PC 画面上でクイズを出題し，操作者が解答を入力する。
国語 図工	絵本作り	・オリジナルイラストで作成した絵本「スイミー」
算数	かけ算1	・乱数，変数の作成 ・ランダムに出題するかけ算問題
	かけ算2	・答えから，かけられる数とかける数を考える問題
	正多角形	・正多角形の作図
理科	植物クイズ	・撮影した花の写真を背景に取り入れた出題方法
	小学6年生「電気と私たちの暮らし」	・スプライトに触れると動く，スプライトへの距離が○以内なら動くという条件設定のプログラム作成
社会	歴史スリーヒントクイズ	・3つのヒントから人物を当てるクイズ問題
生活 社会 総合	町たんけん1	・インターネットから取り込んだ地図や自分で撮影した写真を取り入れた町たんけん発表
	町たんけん2	・写真の挿入や矢印キー，幽霊効果を取り入れた町たんけん発表
音楽	音の挿入	・Scratch 内蔵音の取り込み，録音 ・音を挿入したアニメーション
	リズム作り	・Scratch 内蔵楽器（打楽器）の音を用いたリズム作成

	曲作り	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽機能の挿入 ・Scratch 内蔵楽器音を用いた作曲または既存曲演奏
特活	いいところ見つけ	・友達のよいところ紹介

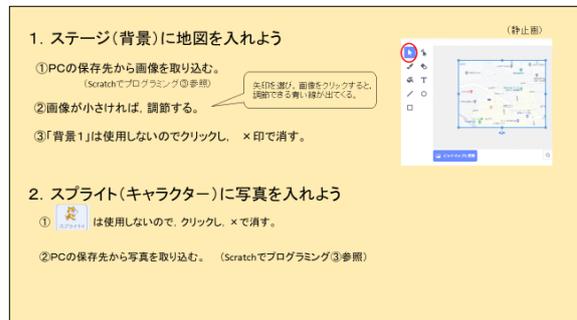
【投稿内容（一部）】

① 町たんけん 1

生活科，社会科，総合的な学習の時間に活用できる発表用教材として使用できる。撮影した写真や訪れた地域の地図をプログラムに取り込み，地図上の探検場所にマウスポインタを当てると訪れた場所の写真が拡大されるようになっている。完成したスライドに合わせて口頭での説明を加えるとより充実した発表になるだろう。

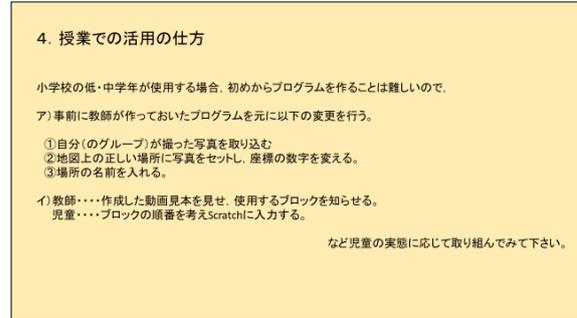
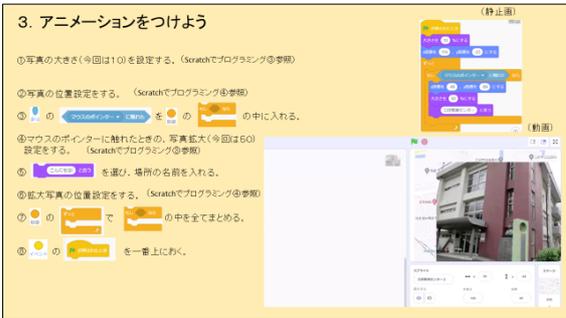
表紙

1 ページ



2 ページ

3 ページ



② 音楽 リズム作り

リズムや旋律作りができるので，作成したリズムの聴き合いやリズムに合わせた旋律の演奏，リズムと旋律の両方を作成して合奏曲を作る学習が可能である。クラブ活動や学級活動でイントロクイズとして作成しても楽しいだろう。

表紙

1 ページ



2 ページ

2. のプログラムを作ろう

リズムのプログラム (静止画)

①背景を追加する。
②スプライト(キャラクター)にスネアドラムを追加する。
③リズムのプログラムを作る。
④動きのプログラムを作る。(動画 音あり)

3 ページ

3. のプログラムを作ろう

①スプライト(キャラクター)にドラムシンバルを追加する。
プログラムの選択楽器にドラムシンバルがないので、クラッシュシンバルにする。
②リズムのプログラムを作る。
③動きのプログラムを作る。(動画 音あり)

4 ページ

4. のプログラムを作ろう

リズムのプログラム (静止画)

①大太鼓の既存のスプライト(キャラクター)がないので、PC内に保存の画像を使う。絵の周りが白いので、修正を行う。(Scratchでプログラミングの参考)

*プログラムの選択楽器に大太鼓がないので、バスタームを使う。

②リズムのプログラムを作る。
③動きのプログラムを作る。

(2) 「Scratch でプログラミング」についてアンケートを実施

ミライムの掲示板を活用した作成教材の情報提供が有効か、またどのような内容の教材が求められているのか知るために、アンケートを実施した。

- ・実施期間 2020年8月3日～2020年8月31日
- ・実施方法 ミライムのメッセージにアンケートとそのお知らせを添付し、ミライム内のアンケートに個々で回答する。
- ・対象者 全会員

* 結果 (一部抜粋) *

- ・回答数 103名
内訳 幼稚園1名, 小学校82名, 中学校20名
管理職24名, 教諭67名, 養護教諭・栄養教諭6名, 事務職4名,
退職者2名





【自由記述（一部抜粋）】

- ・各学校、各担任ともに、はじめての実践で迷いや不安もあり、いろいろ悩みながら施行している状況の中で、具体的に授業で活用できる内容を提供してくれ、有効に活用できる。教材作り等の時間短縮にもなり、現場はととてもありがたい。
- ・プログラミングをしなくてはと思いつつも、どこから何をすれば良いのか分からないままになっているので、このような授業にすぐ使える物があればやってみようと思えた。
- ・学校での研修や研究授業後は「これで子供の興味を引きつけられる教材を作ることができたらなあ。」と思った。しかし、研修後に改めて自分でしてみると教えてもらったことができないこともあったので、様々な教科内容を公開してくれることはありがたい。
- ・中学校では技術科での内容になっていると思うが、技術科の免許を持っている教員がいないという課題がある。プログラミングの学習は、専門的な知識も必要なため、難しくなっているのではないかと思う。

(3) ビジュアルプログラミング言語「Viscuit」

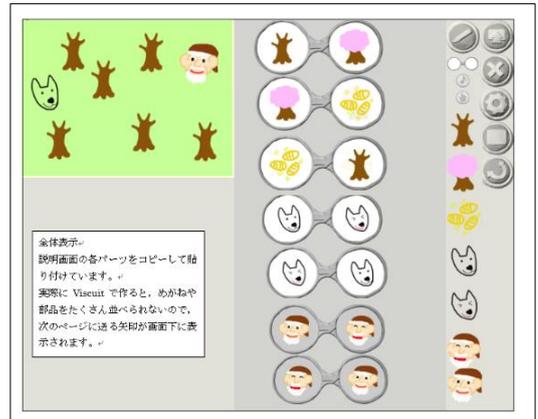
【投稿内容の一覧】

学年	教科	単元	内容（操作説明，アニメーション）
全	図工・生活 特活	キャラクターを描こう	・絵の描き方や絵の動かし方
	図工・特活	夏休みの思い出	・スイカを食べるとスイカの量が減る。 ・花火の色や大きさが変化する。
小1	国語	かんじの はなし	・絵が動き、対象物に触れると絵が漢字に変化する。
	生活	きせつをたのしもう あきとなかよし	・春、夏の植物の絵をマウスでクリックすると秋の絵に変化する。

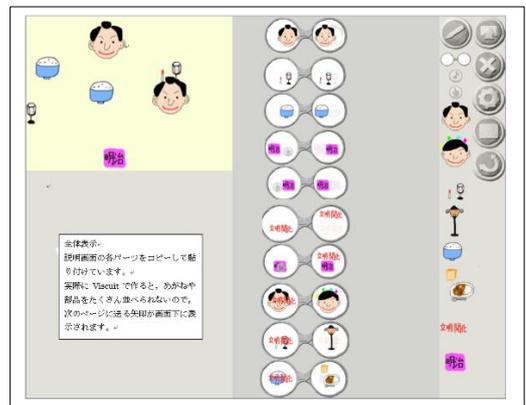
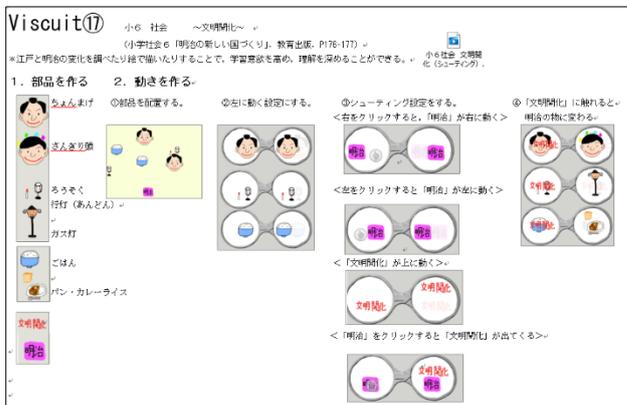
小2	図工	まどからこんにちは	・誰もいない窓から、動物や人がいる窓に変化する。
小3	国語	ローマ字	・ローマ字とローマ字が触れると、文字を表す絵に変化する。 例) 「ma」「ru」→○
	理科	明かりをつけよう	・豆電球と導線に様々な物をつなぎ、点灯の有無を調べた実験のまとめ。
	社会	かわる道具とくらし	・大正時代の道具が「昭和」、「平成」の元号の文字に触れる度に変化する。
小4	国語	本をみんなにすすめよう	・本の帯やPOPに変わる新しい本の紹介。 ・「花さかじいさん」を題材に枯れ木が桜や小判に変化したり、おじいさんや犬の表情が変化したりする。
		同じ読み方の漢字	・読み仮名と漢字の意味を表す絵が触れると漢字に変化する。
	理科	生き物の1年をふり返って	・植物(サクラの枝先)の1年間の変化の様子と小単元の学習のまとめ。
	社会	わたしたちの県のまちづくり	・地図に印をつけた場所をマウスでクリックすると作成した観光地や特産品の絵に変化する。
小5	国語	敬語の使い方	・雲に触れると風船が割れ、尊敬語に変化し、風船が言葉の雲に触れると、謙譲語に変化する。
	社会 総合	米づくりのさかんな地域	・鴨やコンバイン等をマウスのクリック操作で動かし、苗が粃(もみ)まで育つ様子を表現する。最後は粃がご飯に変化する。
	図工	形が動く絵が動く	・雪が降り積もり、雪だるまに変化する。
小6	理科	電気と私たちのくらし	・人や動物がプロペラに触れた時、プロペラが回り、そうでない時プロペラが回らない条件分岐のプログラム。
	社会	明治の新しい国づくり	・江戸時代の物が「文明開化」の文字に触れると、明治時代の物へと変化する。

【投稿内容（一部）】

① 小学4年生 理科「生き物の1年をふり返って」



② 小学6年生 社会科「明治の新しい国づくり」



4 実践

(1) 【授業 I】

- ・ビジュアルプログラミング言語「Scratch3.0」を使用
- ・小学6年生 社会科

学習活動	指導上の留意点 ◆評価
1 めあての確認	<ul style="list-style-type: none"> ・完成動画を見せ、学習のイメージを持たせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「Scratch で歴史スリーヒントクイズを作ろう！」</div>	
2 学習内容の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に見通しを持たせる。
3 プログラミング作成	<ul style="list-style-type: none"> ・教師用 PC を TV に接続し、説明を行う。 ・机間指導の中で操作方法の支援も行う。 ・難しいプログラムは動画を見させ、全体指導する。 ・社会科資料集を使いながら、ヒントを考えさせる。



4 作品発表・ふりかえり	<p>◆自分で設定した答えに対して、知識や情報を選択しながら、難易度を考えたヒント作りができています。</p> <p>・感想を発表させ、次時への活動意欲を高める。</p>	
--------------	---	---

<児童の感想>

- ・操作の仕方が難しかったけど、工夫して動かしたときはパズルが解けたような感覚だった。
- ・仕組みや概念を知ること、「こういう風になっているんだ。」とわかってきた。ゴールが見えてくると「案外できそう！」と思った。
- ・物作りが苦手でも興味を持つことができた。プログラミングは、世界を広めてくれる存在だ。
- ・歴史上の人物のクイズを作るのにとても時間をつかった。でも、とてもいい作品になった。友達にクイズを出したらヒント2で解かれたが、楽しかった。またやりたい。
- ・僕たちがやっているゲームもプログラミングで作られているのだなと思った。
- ・クイズを作るだけでも難しかったので、ゲームを作っている会社はすごいと思う。



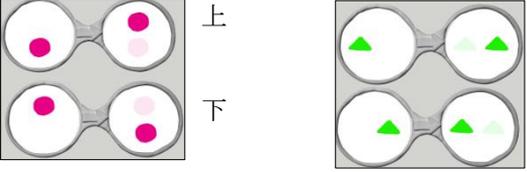
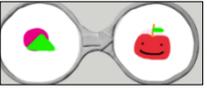
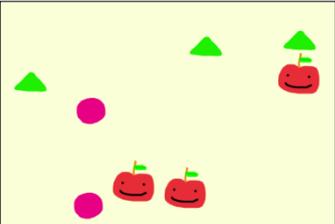
<参観教員の感想>

- ・最初に授業内容を順序立てて示してくれたので、学習の見通しがわかってよかった。
- ・一つ一つの操作を動画で準備され、説明が分かりやすく、T1、T2の交代もスムーズだった。
- ・「前を向いて。」「クリックの音が聞こえるよ。」等の声かけで指導にメリハリがあった。
- ・次々にプログラムされ、クイズが作られていくのが楽しそうだった。根気よく頑張っていた。

【授業Ⅱ】

- ・ビジュアルプログラミング言語「Viscuit」を使用
- ・小学1，2年生（複式学級）図画工作科

学習活動	指導上の留意点 ◆評価
1 めあての確認	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のイメージを持たせ、意欲を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「お気に入りの絵を描いて、動かそう」</div>
2 プログラミング作成 ・練習	<ul style="list-style-type: none"> ・教師用 PC を TV に接続し、説明する。 ・机間指導の中で操作方法の支援も行う。 ・簡単な形（○，△）で絵を描くこと、動かすことを練習させる。

<p>・オリジナル作品</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>・○と△が接触すると絵になることに気付かせる。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>◆自分のイメージを持ちながら，好きな形や色，動きを考え，表現できている。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>・作品や感想発表をさせ，次時への活動意欲を高める。</p>
<p>3 作品発表・ふりかえり</p>	

<児童の感想>

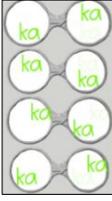
- ・動いて食べられた（形同士が触れて絵に変わる）ところが楽しかった。またやりたい。家でも休みの日にしたい。
- ・次は絵をいっぱい描いて斜めとか縦に動かしたい。絵を動かせることがわかった。
- ・絵と絵が重なったところを見つけるのが難しかった。今度は絵を全部重ねてみたい。

<参観教員の感想>

- ・絵を描く，絵が触れ合うと変化する等，低学年でも楽しくプログラミングできる技をたくさん知ることができてよかった。子供たちが楽しんで取り組んでいた。今後もプログラミングを取り入れていきたい。

【授業Ⅲ】

- ・ビジュアルプログラミング言語「Viscuit」を使用
- ・小学4，6年生（複式学級）国語科

学習活動	指導上の留意点 ◆評価
<p>1 めあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「ローマ字を合体させて，絵に変身させよう」</p> </div>	<p>・ローマ字クイズを行い，授業への関心を高める。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">   </div>
<p>2 題材を決める。</p>	<p>・2文字で，絵が簡単に描けるものを考えさせる。</p>
<p>3 プログラミング作成</p>	<p>・教師用 PC を TV に接続し，説明する。 ・机間指導の中で操作方法の支援も行う。</p>

<p>4 作品発表・ふりかえり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1文字目は操作方法(描く, 動く)を全体指導し, 2文字目と絵は児童が自分で操作を行う。 ・ 色違いの絵の描き方を紹介する。 ◆ 日常に使われている簡単な単語について絵と関連付け, ローマ字で表記しようとしている。 <div data-bbox="1177 304 1423 510" style="text-align: right;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品や感想発表をさせ, 次時への活動意欲を高める。
---------------------	---

<児童の感想>

- ・ 操作が簡単だったので説明を聞いた後, すぐ楽しむことができた。
- ・ 文字が重なって絵ができるのが不思議だった。
- ・ 2文字の言葉を考えたり, 考えた言葉の絵を描いたりするのが難しかった。ローマ字がくっいたら描いた絵になって, それを見ているのがおもしろかった。
- ・ 次チャレンジする時はもっといろんな生き物を描いたり, 合体させたりしたい。字の速さや動きを調節して, わかりやすくきれいな画面にしたい。

<参観教員の感想>

- ・ 授業に集中して取り組み, 笑顔を見せながら学習に臨んでいた。その姿を見て, 改めてプログラミング教育の必要性, 重要性を実感することができた。

(2) 【教員研修】

ビジュアルプログラミング言語「Scratch3.0」を使用し, 学校の様子を紹介するプログラムを個々で作成した。下記の内容を実施し, 行事の写真を使用し, 児童や行事の様子をキャラクターが言葉(文字)で紹介するオリジナル作品が完成できた。

<教員の感想>

- ・ 楽しく研修でき, プログラミング学習に親しみやすくなった。
- ・ Scratchは初めてだったので, 歩数やスピードの調節が難しかった。何度も動かしたり, 試したりして使い方に慣れることが大切だと思った。
- ・ 様々な教科でプログラミングを取り入れられるように, ミライムに掲載されている内容も活用していきたい。

- | | |
|---|----------------|
| 1 | ねこが歩く, 走る |
| 2 | ねこが話をする |
| 3 | アニメーションのスタート設定 |
| 4 | 写真挿入 |
| 5 | 背景自動変更設定 |
| 6 | ねこの向き変更 |
| 7 | ねこの位置設定 |
| 8 | 保存 |

5 成果と課題

○ 教材作成

「Scratch」は、自分で撮影した写真や録音した音（音楽）を使用できるので、実体験したことを作品に取り入れることに有効である。また、正多角形の作図や内蔵された楽器の音色を使った音楽作成も可能なため、授業で学習したことを生かしてプログラミング学習を行うので、学びを深めたり充実させたりできる。

「Viscuit」は、変化や動きのある学習内容に有効である。マウスで描いた絵が簡単な操作で動くため、小学1年生から容易に制作できる。

どちらも様々な教科で実施可能なため、児童の実態や学習内容に応じてそれぞれの特徴を生かしながら取り組むとより効果的な学びが生まれるだろう。

○ 実施アンケート

回答者の8割から「掲示板での掲載を継続してほしい」「授業準備や指導等で役に立つ」等の声があり、ニーズの高さが窺えた。今後は、授業実践の紹介やアイデアを出し合いながら共に教材研究をする等、情報交換の必要性が感じられる。

○ 授業実践

児童全員がプログラミングの楽しさを実感し、達成感を得ていた。授業Ⅰでは、資料集を使って既習事項の確認をしたり、より詳しい内容を探したりする様子から学びの定着や学びを深める効果が見られた。また、ゲームがプログラミングによって作られていることやそれを作っている人がいることに気づき、プログラミングが生活の身近にあるものだと感じ始めていた。授業Ⅱ・Ⅲでは、自分がイメージした絵や文字を動かすためには、どのような形や色、動きが必要かを考えながら取り組み、プログラミング的思考を働かせる第一歩になっていた。「次は～を作りたい」という創作意欲が学習意欲にもなっていた。

指導の中では、コンピュータ自体や「Scratch」「Viscuit」の操作の理解や慣れによる個人差から、作品の制作過程にズレが生まれ、全体指導の難しさを感じたことが多々あった。プログラミングに限らずどの授業でも児童の実態に応じて発問や課題提示の仕方を工夫したり、児童同士の学び合いの場を設定したりする等、教材研究や指導技術の向上に努める必要があることを実感した。

6 おわりに

AからBにするために、操作はこれにして・・・表現方法はあれにして・・・と気付けばプログラミング的思考が私の中に生まれ始めていた。きっと、プログラミング学習に取り組んだ児童、教員もその楽しさや面白さ、達成感を感じ、プログラミング的思考を知らず知らずのうちに身に付けていたのではないだろうか。様々な教育活動の中、限られた授業時数でプログラミングの授業を実施することは簡単なことではないが、子供たちの未来のため今後も研究を続けていきたい。

【参考文献，参考 URL】

小学校学習指導要領解説 総則編 小学校プログラミング教育の手引き（第三版）

Scratch スタジオ - Scratch ではじめよう！プログラミング入門

<http://scratch.mit.edu/studios/1168062/>

ビスケット viscuit | コンピュータは粘土だ!!

<https://www.viscuit.com/>

既刊「研究紀要」の内容一覧（平成元年～）

集	年度	内 容
30	平成 元	園外の地域環境を生かし、幼児の主体性を育てるための活動は、どのようにすればよいか 幼稚園第2ブロック共同研究 小規模校の特性を生かし、児童一人一人に応じた指導をめざして －学校・家庭・地域が一体となって－ 池田町 下野呂内小学校 「子どもが生き生きと取り組む、豊かな教育活動」 －ふるさと意識を高めるために－ 山城町 山城小学校 明日を担う心豊かで自主性のある生徒の育成 －ボランティア活動を通して－ 井川町 井川中学校 へき地の特性を生かし、一人一人がたくましく伸びる魅力ある学校の創造 －同单元類似内容の指導の試み－ 池田町 出合小学校 郡内家出少女についての考察 三好郡青少年育成センター 久原 啓治 樹木面に見られる心の世界Ⅱ －児童・生徒の理解と援助のために－ 三好郡教育研究所員 入江 宏明
31	平成 2	ふるさとでの活性化をになう子どもたちの自発性をほりおこすために 西祖谷山村 善徳小学校 教諭 徳善 之浩 体験を通して豊かな心を育て、実践まで高める道徳教育 三加茂町 三庄小学校 教諭 吉田美千代 一人一人が主体的に取り組む、活力ある生徒の育成をめざして 池田町 池田第一中学校 教諭 小島 治子 西字小学校における生活科年間計画 －平成4年度教育課程完全実施へ向けての新しい試み－ 山城町 西字小学校 教諭 内田三千代 英語指導助手（AET）とのティーム・ティーチングを通して 池田町 池田中学校 教諭 木藤 康子 －コミュニケーション能力の育成のために－
32	平成 3	主体的な生活を促す幼稚園教育 －人とのかかわりをとおして－ 第3ブロック幼稚園 池田町 川崎幼稚園 教諭 林 節子 馬場幼稚園 教諭 丸岡 明美 西山幼稚園 教諭 東川たつ子 子どもが主体的に取り組む特別活動 －たて割り班の活動を通して－ 井川町 井内小学校 教諭 立川 義輝 自らが心身ともに健康な体づくりに取り組む児童の育成 －進んでむし歯予防に取り組む白地っ子を目指して－ 池田町 白地小学校 養護教諭 平田志津子 生徒が生き生きと活動するための手立てはどのようなであればよいか －学校行事などの活動を通して－ 山城町 山城中学校 教諭 佐藤英一郎 一人ひとりを生かす評価活動 －学習意欲を高める理科の指導－ 三好郡教育研究所員 藤本 智恵
33	平成 4	主体性を伸ばし、実践力を育てる特別活動 －個性を重視した、たて割りグループによる児童集会活動を通して－ 山城町 大野小学校 教諭 上田 優 へき地小学校における性教育についての研究 －性教育の実践を通して－ 東祖谷山村性教育研究会 和田小学校 教諭 松村 直也 ふるさとを愛する心の育成を目指して －体験的活動を通して－ 西祖谷山村 西祖谷中学校 教諭 篠原 一仁 中学校国語科書写における行書指導 －行書を活用した筆写活動の日常化をめざして－ 三好郡教育研究所 研究員 岸 敬子
34	平成 5	健康でたくましい子どもの育成をめざして －主体的に取り組む活動－ 第3ブロック幼稚園 教諭 上林加津子 永田 協子 自然に感動し、主体的に学び続ける児童の育成 －一人一人の表現活動を高め、科学的な見方や考え方を育てる理科学習－ 三野町 王地小学校 教諭 安西 政和 自ら学び、自らきたえる心豊かな子どもの育成 －ボランティア活動をとおして－ 三好町 昼間小学校 教諭 武岡 澄代

		奉仕等体験学習を通して、思いやりのある心豊かな生徒の育成 池田町 池田中学校 教諭 古林 久代 英語指導を通して平和教育をすすめる一私案 -ピース・メッセージの実践を通して- 三好郡教育研究所 研究員 長谷 郁代
35	平成 6	地域に開かれた学校づくり -すこやかな児童の育成をめざした、地域ぐるみで取り組む学校行事- 山城町 大和小学校 教諭 久保 満男 小規模校における環境教育の取り組み -教科, 特別活動の実践を通して- 池田町 馬路小学校 教諭 細川 敬雄 地域とともにあゆむ生徒の育成をめざして 三好町 三好中学校 教諭 玉木 利典 選択履修の幅の拡大 -家庭科- 三好郡教育研究所 研究員 佐々木 待子
36	平成 7	主体的な生活を促す幼稚園教育 -幼児が自分らしさを発揮して生活する環境と援助を考える- 第4ブロック幼稚園 山城幼稚園 蔵下美千子 思いやりのある心豊かな児童の育成をめざして -「いじめ」を許さない学校づくりへの取り組み- 三好町 加茂小学校 教諭 小笠 健二 「郷土を愛し、心豊かな児童の育成を目指して」 -体験学習・ボランティア活動を通して- 西祖谷山村 吾橋小学校 教諭 濱口 久弥 生徒会活動の活性化をめざして -自ら考え、行動する生徒会活動への教師の支援- 三好町 三好中学校 教諭 山西 敏広 生活に生きる書写力の育成を目指して -中学1年生への意識調査と実践例- 三好郡教育研究所 研究員 栗田 典子
37	平成 8	地域に根ざした福祉・ボランティア教育 -施設訪問を通して- 井川町 辻小学校 細川 文男 『ふるさとを愛し、人間として主体的に生きる生徒の育成』 山城町 大野中学校 小学校国語の文法的事項の指導 -「何について」「どのように」「どこまで」指導するか- 三好郡教育研究所 研究員 吉田美千代
38	平成 9	幼稚園において、幼児の興味や欲求に応じ、幼児とともに充実した生活をつくりだすためには、環境を どのように構成すればよいか 第1ブロック幼稚園 教諭 宮成 典子 物やお金を大切に、思いやりのある豊かな心を持つ児童の育成 池田町 三縄小学校 教諭 森本 明子 環境教育 Think Globally, Act Locally を目指して -積極的に環境と関わり、責任ある行動がとれる生徒の育成- 三好町 三野中学校 教諭 丸岡 美枝 学校不適應問題の諸相と教師の援助について 三好郡教育研究所 研究員 山田恵美子 学級担任の教師が行う教育相談 -ある不登校児とのかかわりを通して- 三好郡教育研究所 研究員 吉田美千代
39	平成 10	身近な環境に意欲的にかかわり、よりよい環境づくりや環境保全に配慮した望ましい行動がとれる児童 の育成 山城町 政友小学校 教諭 大西公美子 一人一人の個性を尊重し、豊かな心と、『生きる力』を育むために -地域に育てられ、地域と共に伸びる生徒の育成- 東祖谷山村 東祖谷中学校 教諭 梶原真里子 今、子どもたちの心は? -三好郡内小中学生意識調査から- 三好郡教育研究所 研究員 吉岡 弘恵 三好郡教育研究所 研究員 山田恵美子
40	平成 11	魅力ある幼稚園教育の創造 (三好町三園の取り組み) -生活体験や自然体験を通しての生きる力の育成- 三好町内幼稚園 ふるさとに立ち、たくましく生きる力をもつ、心豊かな子どもの育成 -名頃を見つめ、名頃を愛する学習を通して- 東祖谷山村 名頃小学校 教諭 橋本 隆 「人権感覚豊かな心」と「共に生きる力」を育む教育の創造 -「選択の時間」を生かした取り組みの中で- 井川町 井川中学校 教諭 内田 典善 授業の効果を高めるためのコンピュータ利用のあり方 三好郡教育研究所研究員 西井川小学校 吉岡 弘恵 英語科においてコミュニケーション能力を育成するために 三好郡教育研究所研究員 三好中学校 新居 信子

41	平成 12	<p>「ひと・もの・こと」とのかかわりを通して、生きる力を育む王地学習 王地小学校 教諭 北川ひとみ</p> <p>自ら学び、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成 -地域の特性を生かした取り組みの中で- 池田第一中学校 教諭 立花 久</p> <p>三好郡における情報教育の現状とその考察 -郡内小中学生・教職員の意識調査から- 三好郡教育研究所 研究員 池田中学校 木藤 和恵 三好郡教育研究所 研究員 三好中学校 新居 信子</p>
42	平成 13	<p>「生きる力」を育む幼稚園教育のあり方 -幼児が自ら生活していくための教師の役割- 白地幼稚園 教諭 木徳 友子</p> <p>「ふるさとを愛し、共に学びあう心豊かな児童の育成」 -へき地の特性を生かした様々な体験活動をとおして- 東山小学校 教諭 高篠 佳子</p> <p>生きる力を養う生徒の育成 山城中学校 教諭 白井 正道</p> <p>T T授業や少人数授業を実施した徳島県の連絡協議会資料(平成12年度・13年度)から中学校数学におけるT T授業について考察する 三好郡教育研究所 研究員 池田中学校 上田 美恵</p> <p>自ら学び、豊かな心を育てる学校図書館についての研究 三好郡教育研究所 研究員 池田中学校 木藤 和恵</p>
43	平成 14	<p>豊かな感性をはぐくむ教育の創造 -金子みすゞの心を活かした詩の指導をとおして- 三好郡教育研究所 研究員 西井川小学校 小角 昌美</p> <p>数学で基礎基本の力をつける方法をさがして 三好郡教育研究所 研究員 池田中学校 上田 美恵</p> <p>地域における教育ネットワークの活用とコーディネータの役割 -学校インターネット指定から始まった三好郡の教育ネットワーク- 三好郡ネットワークセンターICTコーディネータ 中川 齊史 生藤 元</p>
44	平成 15	<p>生きる力をはぐくむ幼稚園教育のあり方 -身近なものに興味を持ち、活動を豊かにするためには、教師はどのようにかかわればよいか- 吾橋幼稚園 教諭 山口 里子</p> <p>「生きる力」を育む総合的な学習 -ふるさとを愛し、人や自然と積極的にかかわろうとする児童の育成をめざして- 出合小学校 教諭 岡 佳子</p> <p>「ふるさとを愛し、豊かな感性を持ち、自らの力で未来を創造しようとする子どもの育成」 西祖谷中学校 教諭 富永 浩史</p> <p>「生きる力」をはぐくむ美術教育美術の基礎基本の力を身につけ、個性を生かす指導について -人として心豊かに生きていくことのできる力を育てるために- 三好郡教育研究所 研究員 田口美千代</p> <p>生きる力をはぐくむ教育の探求 -「本との出会い」をとおして- 三好郡教育研究所 研究員 小角 昌美</p>
45	平成 16	<p>ふるさとの歴史や自然、文化にふれる活動を通して、自ら学び心豊かに生きる子どもの育成 下名小学校 教諭 高岡 和恵</p> <p>『地域から学ぶ「生きる力」の育成』 池田中学校</p> <p>「みる力」を育てる美術教育 -美術の基礎・基本をみつめて- 三好郡教育研究所 研究員 田口美千代</p> <p>学校の情報化をどのように進めるか 三好郡教育研究所 研究員 生藤 元</p>
46	平成 17	<p>幼稚園において、幼児と人やものとのかかわりが重要であることを踏まえ、幼児の主体的な活動を確保するための物的・空間的環境をどのように構成していくか 第1ブロック 三野町・三加茂町幼稚園研究グループ</p> <p>地域や学校の特性を生かし、一人ひとりの『生きる力』を伸ばす生活科・総合的な学習の時間 絵堂小学校 教諭 鶴田 美枝</p> <p>地域や人に関わる体験的な活動を通して、自ら考える生徒の育成 三好中学校 教諭 野田 圭祐</p> <p>三好郡小学校における情報教育の現状について 三好郡教育研究所 研究員 生藤 元</p> <p>文字式の指導に関する研究 -1年文字式における生徒の理解の仕方について- 三好郡教育研究所 研究員 上田 美恵</p>

47	平成 18	子どもの豊かな言語感覚を養う指導 -主体的により良く伝え合う力の育成をめざして- 西井川小学校 教諭 丸本 豊美 地域に学ぶ総合的な学習の時間 -共に生きる町づくりについて考えよう- 三加茂中学校 教諭 玉木 利典 三好郡・市の小学校における情報教育の現状 三好教育研究所 研究員 生藤 元
48	平成 19	「健全な心身の成長をめざして」 -高齢者や保護者とのふれあいや連携を図りながら- 第2ブロック 三野町・井川町幼稚園研究グループ 「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」自らの食生活に関心を持ち、すすんで健康づくりに取り組む子どもの育成 -学校・家庭・地域の連携した取り組み- 池田小学校 栄養教諭 大西 欣美 「確かな学力」を身につけさせるために -プレゼンテーション能力の育成とICT機器の利用- 三野中学校 教諭 中川 悌二 「グラフを書くのは何のため？」 -何でもかんでも「%」からの脱却で、知的な分析を- 三好教育研究所 研究員 中川 斉史 「学校現場の生活を便利に工夫し能率化を図ろう」 -子どもたちに「創意工夫」の精神が大切なことを伝えよう- 三好教育研究所 研究員 西井 昌彦 「中学校理科におけるICT機器の活用」 -評価活動におけるマークシートの利用- 三好教育研究所 研究員 山田 泰弘
49	平成 20	ふるさとを愛し、ふるさとを元気にする心豊かな子どもを育てる 櫛生小学校 教諭 谷川 智彦 小規模校の良さを生かした修学旅行の実践 -『バスガイドさん・運転手さん・添乗員さんとのふれあい』を中心として- 東祖谷中学校 教諭 高崎 英和 授業カイゼンとICT活用 三好教育研究所 研究員 中川 斉史 体育科における効果的なICT機器の活用について 三好教育研究所 研究員 西井 昌彦 「小学校情報テキスト」の利用状況について 三好教育研究所 研究員 中川 斉史 学級づくりにおける分析と対応の一考察 -構成的グループエンカウンターを考え方を生かして- 三好教育研究所 研究員 石丸 秀樹
50	平成 21	幼稚園での確かな学び・小学校での確かな学力をめざして -人やものとのかかわりを深め、豊かな感性や思考力の芽生えを育てる- 山城幼稚園 教諭 山中あけみ 池田幼稚園 教諭 大久保珠美 新しい学力観をふまえた学びの創造 -習得型学力から活用型学力へのステップ- 足代小学校 教諭 熊井 美樹 ボランティア活動を通じて生徒の自主性を育てる 井川中学校 教諭 村上 郁代 小学校外国語活動の現状と今後の在り方 -小・中における英語教育の連携を目指して- 三好教育研究所 研究員 藤本 恒幸 授業におけるICT活用の促進についての課題 三好教育研究所 研究員 福田 ミカ
51	平成 22	「人間力」を育てる総合的な学習の時間・生活科の創造 -人・地域との関わりの中で育つ豊かな学びの追求- 芝生小学校 教諭 小原 敏二 「ふるさとを愛する心」を育てる 山城中学校 教諭 内田 清文 実物投影機の活用目的の明確化 -実物投影機利用意図の可視化を通して- 加茂小学校 教諭 福田 ミカ 三好市・三好郡の中学生の都道府県認知の実態 三好教育研究所 研究員 山西 敏広 三好郡市小・中学校における情報モラル教育の現状と課題 -三好郡市小・中学校学級担任アンケート調査と研究授業より- 三好教育研究所 研究員 山口 恭史
		豊かな感性や思考力の芽生えを培う保育内容の創造 -小学校との連携の中で育つ「学びの芽生え」- 大野幼稚園 教諭 谷本 紀子 地域から学び、ふるさとを愛する心豊かでたくましい子どもの育成 -学びを生かし、自らを表現できる佐野っ子をめざして- 佐野小学校 教諭 山田 知弘

52	平成 23	人や地域とつながり、協働できる生徒の育成 －「コミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」をとおして－ 西祖谷中学校 教諭 西岡ひとみ 三好市・三好郡の中学生の都道府県認知のイメージ 三好教育研究所 研究員 山西 敏広 平成23年度三好郡市小・中学校学級担任の情報モラル教育 －グループウェアによるアンケート調査と低・中・高学年研究授業より－ 三好教育研究所 研究員 山口 恭史
53	平成 24	家庭や地域、中学校との連携を密にした特色ある学校づくり －小学校の統合と小中連携教育の中で育つ学び－ 東祖谷小学校 教諭 森永 直美 人・社会・自然とのつながりの中で人間性を育む教育活動 池田中学校 教諭 丸岡 美枝 三好郡・市小中学校における情報モラル教育－学級担任アンケート調査と研究授業より－ 昼間小学校 教諭 山口 恭史 「小学校外国語活動についてのアンケート」から見えてくること 三好教育研究所 研究員 山下 達也 三好市・三好郡の小・中学校におけるICT活用状況について 三好教育研究所 研究員 岡本 博一
54	平成 25	豊かな心をはぐくむ幼稚園教育－様々な体験活動を通じて、地域の人々や同年齢、異年齢の子どもたちとふれあう交流活動の実践研究－ 昼間幼稚園 教諭 佐藤 重美 地域とともにある学校をめざして－地域の教育力を生かして育てる三庄っ子－ 三庄小学校 教諭 三好美智代 生徒一人ひとりの思いが尊重され、つながりを大切にする活動を通して 三好中学校 教諭 近藤 剛 複式学級における指導の充実を目指して 三好教育研究所 研究員 赤堀 誠司 ICT活用の推進と情報モラル教育 三好教育研究所 研究員 岡本 博一
55	平成 26	家庭や地域と手を取り合って心豊かな子どもをはぐくむ教育活動の実践 ～多くの人々とふれ合う体験的な活動や学校行事を通して家庭や地域と手を取り合って心豊かな子どもをはぐくむ教育活動の実践～ 井内小学校 教頭 住田 克弘 豊かな心と、自ら学ぶ力を育てる中学校教育の創造～学校図書館を中心として～ 三加茂中学校 教諭 山下ちづる 小中連携教育～東祖谷小中学校の取り組み 三好教育研究所 研究員 岡本 博一 複式学級におけるパソコンを活用した算数科の授業 三好教育研究所 研究員 赤堀 誠司 社会科における思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫～討論活動を取り入れた授業づくり～ 三好教育研究所 研究員 井川 秀樹
56	平成 27	自分で気づき、考え、実行し、仲間とともに未来を生きぬく心豊かな子どもの育成 ～地域との交流を通してふるさとの魅力再発見～ 箆蔵小学校 教諭 藤原 隆司 出会いをつなぎ、自己を見つめ、自他の人権を尊重する生き方を求めて 三野中学校 教諭 尾形 君代 ～識字学級との交流を通して～ 三好教育研究所 研究員 加藤 公夫 「読む知る感じる」読書環境をめざして～学校図書館教育の実践と課題～ 三好教育研究所 研究員 井川 秀樹 児童・生徒の生活環境の改善を目指して～ネット端末（スマホ等）の使用時間を見直して～ 三好教育研究所 研究員 井川 秀樹
57	平成 28	地域から学び、郷土を愛し、主体的にたくましく生きる児童の育成 ～様々な人とのかかわりや体験活動を通して～ 山城小学校 教諭 井上 清隆 「生きる力」を育む土曜授業実践の成果と課題 三好教育研究所 研究員 加藤 公夫 関わりの中で主体的に学び豊かな感性を育む鑑賞教育～見て、考えて、表して、意見を交わす～ 三好教育研究所 研究員 宮成万寿美
58	平成	変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く日本人の育成 ～身近な自然や人とのかかわりをとおしてしなやかな心と体をはぐくむ保育の工夫～ 西井川幼稚園 教諭 元木 真砂代 豊かな心を持ち、未来に向かって主体的に行動する子どもの育成 ～一人一人のちがいを認め、助け合う仲間づくりを通して～ 王地小学校 教諭 濱口 ミエ

29		<p>社会科デジタル教材の開発と活用 ～ I C T の有効な活用をめざして～ 三好教育研究所 研究員 常村 淳 生徒の意欲関心を高め、豊かな感性や思考力を育成する主体的な学びについて ～美術科における提示型デジタル教材の作成と活用を通して～ 三好教育研究所 研究員 宮成万寿美</p>
59	平成 30	<p>自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度の育成 ～実践的な安全教育の取り組みを通して～ 昼間小学校 教諭 久原 有里 生徒の意欲関心を高め、豊かな感性を育成する主体的な学びについて ～美術科におけるデジタル教材の作成と活用を通して～ 三好教育研究所教育研究所 研究員 宮成 万寿美（現三野中学校） 興味関心を高め、基礎学力向上に役立つデジタル教材の開発と活用 三好教育研究所 研究員 常村 淳 誰もが分かる、楽しい授業を目指して ～ I C T の活用と U D を取り入れた授業の工夫～ 三好教育研究所 研究員 立花 志津</p>
60	令和 元	<p>小規模校における児童の資質・能力の育成 ～「何ができるようになるか」に焦点をあてて～ 白地小学校 教諭 小越 彩佳 豊かななかかわり合いの中で、たくましく自立できる子どもの育成 ～15歳の旅立ちに向けて～ 東祖谷中学校 教諭 西野 猛 オリンピック・パラリンピックを活用した教育 三好教育研究所 研究員 中瀧 由紀 安全で楽しい理科の観察・実験 三好教育研究所 研究員 立花 志津</p>
61	令和 2	<p>豊かな体験活動から学びを拓き、深める吾橋教育 ～へき地・複式・小規模校の特性を生かして～ 吾橋小学校 教頭 井上 清隆 表現リズム遊び・表現運動の指導の現状 –調査から分かったこと、研修会で学んだこと– 三好教育研究所 研究員 中瀧 由紀 小学校の授業で活用できるプログラミング教育教材 三好教育研究所 研究員 橋本早弥香</p>